

大人の「金融経済教育」に関する 調査報告書

2025年2月

一般財団法人
経済広報センター

はじめに

経済広報センターは、広く社会の声を聴くため全国の様々な職種、世代で構成される「社会広聴会員」を組織し、経済・社会問題など折々のテーマについて、アンケート調査を行っています。

政府は、2022年に掲げた「資産所得倍増プラン」に基づき、2024年から「NISA（少額投資非課税制度）」の拡充・恒久化を開始しました。「成長と分配の好循環」の達成に向けて経済の成長と国民の資産所得増加を目指す潮流に鑑み、経団連では2023年12月14日、金融・資本市場委員会において、金融庁栗田照久長官（当時）から今後の金融行政の方向性について説明を聴くとともに、意見交換を実施しています。

「資産運用立国」実現には国民の金融リテラシー向上が肝要です。政府は、2022年4月、高校学習指導要領を改訂し、高等学校の家庭科で「資産形成」「家計管理」「ライフプラン」といった金融経済教育を必修化しています。また、2024年4月には官民連携して、「金融経済教育推進機構（J-FLEC）」を設立し、幅広い年齢層に向けてニーズに応えた教育の機会を拡充していくとしています。

今回の調査では、「家計管理」「ライフプラン」「リタイアメントプラン」「資産形成」の4つの項目について、重要性の認識、実施度、情報源としての活用媒体などを聞き、大人の金融リテラシーの実態を把握しました。そのうえで、年齢・性別・職業などの項目による結果の差異などについて分析をしています。

調査の結果、「家計管理」「ライフプラン」策定、「リタイアメントプラン」策定を「重要」「やや重要」と回答した人は、いずれも90%を超えました。一方で、「家計管理」を実際に意識して生活を「している」「ある程度はしている」人は、77.6%でした。また、「ライフプランを意識して具体的に立案し、生活に反映している」人は35.8%であり、「リタイアメントプランを意識して具体的に立案し、生活に反映している」人は29.4%でした。「資産形成」については、「ライフプランを意識しており、資産形成も行っている」人が、全体の55.3%でした。「家計管理」「ライフプラン」策定、「リタイアメントプラン」策定の「重要性」を認識していながら、実際に取り組めていない人が認められるという実態が明らかになっています。

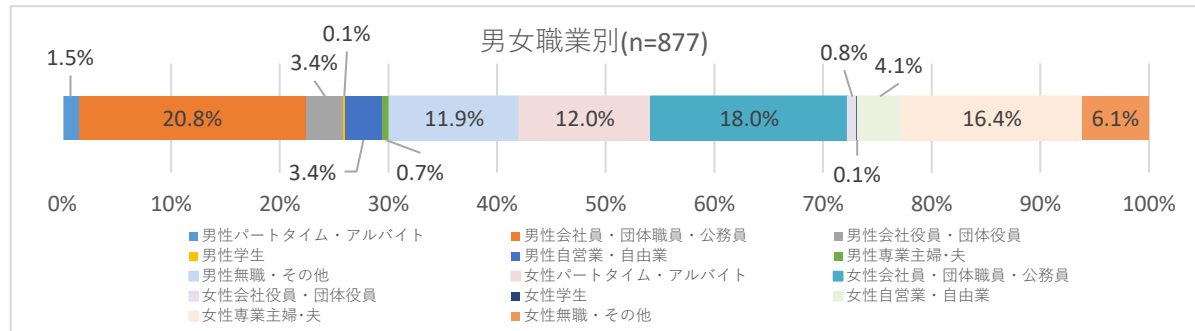
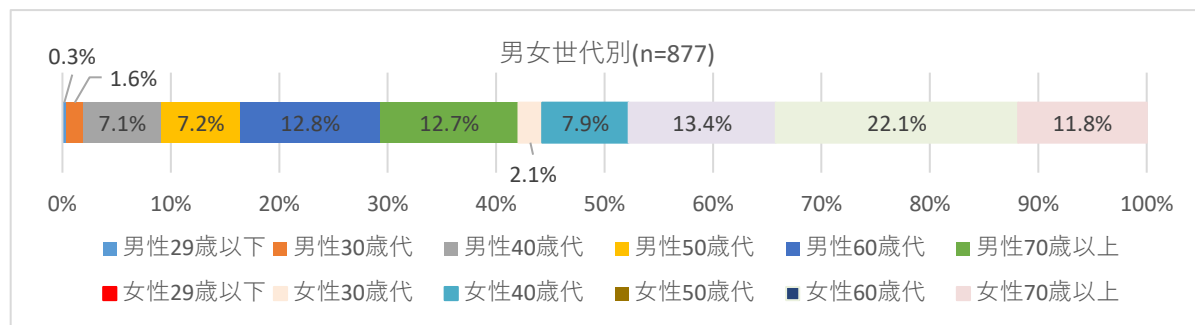
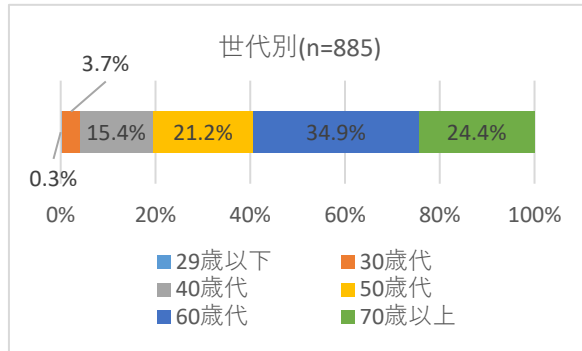
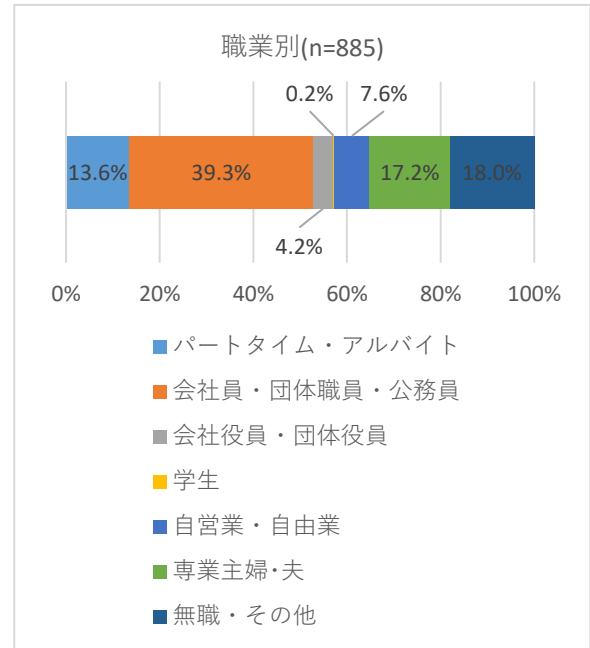
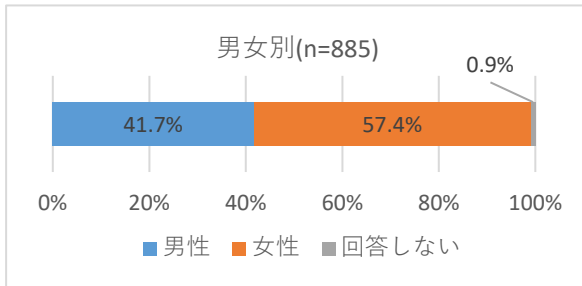
「家計管理」「ライフプラン」「リタイアメントプラン」は、各年代において今後の人生のイベントを想定し、未来の夢や目標を認識して、個々人のライフスタイルに合わせて考えることが望ましいものです。「資産形成」も、充実した人生を叶えるための資金ニーズを満たし、不測の事態に対応するために、一人ひとりの状況に応じて計画することが大切です。

本報告書が、「資産形成」等について考えるうえでの参考となれば幸甚です。

【調査の概要】

- ・調査対象：2,309人
- ・調査方法：インターネットによる回答選択式および自由記述方式
- ・調査期間：2024年11月28日(木)～12月9日(月)
- ・有効回答：885人 (38.3%)
- ・回答者の属性：
 - 男女別：男性 (369人、41.7%)、女性 (508人、57.4%)、回答しない (8人、0.9%)
 - 世代別：29歳以下 (3人、0.3%)、30歳代 (33人、3.7%)、40歳代 (136人、15.4%)、50歳代 (188人、21.2%)、60歳代 (309人、34.9%)、70歳以上 (216人、24.4%)
 - 職業別：会社員・団体職員・公務員 (348人、39.3%)、会社役員・団体役員 (37人、4.2%)、自営業・自由業 (67人、7.6%)、パートタイム・アルバイト (120人、13.6%)、専業主婦・夫 (152人、17.2%)、学生 (2人、0.2%)、無職・その他 (159人、18.0%)
 - 男女世代別：男性29歳以下 (3人、0.3%)、男性30歳代 (14人、1.6%)、男性40歳代 (63人、7.1%)、男性50歳代 (64人、7.2%)、男性60歳代 (113人、12.8%)、男性70歳以上 (112人、12.7%)、女性29歳以下 (0人、0.0%)、女性30歳代 (19人、2.1%)、女性40歳代 (70人、7.9%)、女性50歳代 (119人、13.4%)、女性60歳代 (196人、22.1%)、女性70歳以上 (104人、11.8%)
 - 男女職業別：男性会社員・団体職員・公務員 (184人、20.8%)、男性会社役員・団体役員 (30人、3.4%)、男性自営業・自由業 (30人、3.4%)、男性パートタイム・アルバイト (13人、1.5%)、男性専業主婦・夫 (6人、0.7%)、男性学生 (1人、0.1%)、男性無職・その他 (105人、11.9%)、女性会社員・団体職員・公務員 (159人、18.0%)、女性会社役員・団体役員 (7人、0.8%)、女性自営業・自由業 (36人、4.1%)、女性パートタイム・アルバイト (106人、12.0%)、女性専業主婦・夫 (145人、16.4%)、女性学生 (1人、0.1%)、女性無職・その他 (54人、6.1%)

【調査の概要（グラフ）】



※本アンケートにおける「家計管理」とは、毎月の収入や貯蓄額を軸に家計における1カ月の費用（支出）のバランスをどうとるかを考える「短期の生活設計」を指します。

※本アンケートにおける「ライフプラン」とは、就職・結婚・住宅購入・出産・子育て・退職・老後生活・終活など、人生で大きなお金がかかるイベントに向けて“資金計画（お金の計画）”を立てる「長期の生活設計」を指します。

※本アンケートにおける「リタイアメントプラン」とは、リタイア（定年などによる退職）後のセカンドライフにおける収入と支出を考え、“資金計画（お金の計画）”を立てることを指します。

※本アンケートにおける「資産形成」とは、労働収入・公的年金収入の他、円貨預貯金、外貨預金、生命保険、NISA、確定拠出年金、投資信託、株、債券、投資用不動産、金、暗号資産などにより、個人が将来の財産（資産）を形作ることを指します。

目 次

はじめに	2
目次	7
調査結果の概要	8
調査結果データ	
1. 「家計管理（短期の生活設計）」に対する意識	10
(1) 「家計管理」を行うことの重要性	10
(2) 「家計管理」を意識して生活しているか	12
(3) 「家計管理」のための情報収集や学習をしたことがあるか	14
(4) 「家計管理」の情報源	16
2. 「ライフプラン（長期の生活設計）」に対する意識	20
(5) 「ライフプラン」を立案することの重要性	20
(6) 「ライフプラン」を意識して生活しているか	22
(7) 「ライフプラン」立案のための情報収集や学習をしたことがあるか	25
(8) 「ライフプラン」立案のための情報源	27
3. 「リタイアメントプラン（老後計画）」に対する意識	31
(9) 「リタイアメントプラン」を立案することの重要性	31
(10) 「リタイアメントプラン」を意識して生活しているか	33
(11) 「リタイアメントプラン」立案のための情報収集や学習をしたことがあるか	36
(12) 「リタイアメントプラン」立案のための情報源	38
(13) 「家計管理」「ライフプラン」「リタイアメントプラン」に関する認識・意見等	42
4. 「資産形成」に対する意識	43
(14) 「ライフプラン」を意識して「資産形成」を行っているか	43
(15) 「資産形成」の必要性（円預貯金・円預貯金等以外）	47
(16) 円預貯金等以外による「資産形成」の実施状況	50
(17) 円預貯金等以外による「資産形成」を行っていない理由	51
(18) 「資産形成」のための情報収集や学習をしているか	52
(19) 「資産形成」の情報源	54
(2) 「資産形成」に関する認識・意見等	58

調査結果の概要

1. 「家計管理」、「ライフプラン」立案、「リタイアメントプラン」立案を「重要」と考えていても、これらを意識した生活をしていない層・情報収集や学習をしたことがない層が認められる
 - ・「家計管理」は「重要（重要／やや重要）」と93.5%が回答。一方、「家計管理」を意識して生活「している」は77.6%。情報収集や学習を「したことがある」は53.8%
 - ・「ライフプラン」立案は「重要（重要／やや重要）」と93.1%が回答。一方、「ライフプラン」を意識して具体的に立案し、生活に反映している」は35.8%。情報収集や学習を「したことがある」は63.3%
 - ・「リタイアメントプラン」立案は「重要（重要／やや重要）」と92.2%が回答。一方、「リタイアメントプラン」を意識して具体的に立案し、生活に反映している」は29.4%。情報収集や学習を「したことがある」は52.0%

→短期・長期の生活設計や老後計画の重要性は認識されているが、情報収集や学習をして生活に反映させるまでには至っていないことを調査結果は示唆している ※詳細は(2)(3)(6)(7)(10)(11)に掲載
2. 「家計管理」「ライフプラン」「リタイアメントプラン」を意識した生活を「している」は、男女ともに中年層では少なく、高年層では多い傾向
 - ・「家計管理」「ライフプラン」「リタイアメントプラン」を意識した生活を「している」割合はいずれも、男女とも70歳以上が高く、40歳代が低い傾向
 - ・特に「リタイアメントプラン」を「立案し、生活に反映している」は、女性70歳以上が46.2%、男性70歳以上が45.5%に対し、女性50歳代は17.6%、男性50歳代は18.8%、女性40歳代は15.7%、男性40歳代は19.0%。世代間の差がある

→老後の生活設計は早めの準備が望ましいが、40歳代・50歳代から「リタイアメントプラン」を計画的に立案し、生活に反映することの難しさが調査結果に現れている ※詳細は(2-1)(6-1)(10-1)に掲載
3. 「ライフプラン」「リタイアメントプラン」立案の重要性を高く認識している層ほど、実際にこれらを具体的に立案し、生活に反映している
 - ・「ライフプラン」を意識して具体的に立案し、生活に反映している」と回答した割合は、「ライフプラン」立案を「重要」と回答した層では50.5%、「やや重要」と回答した層では16.9%、「どちらともいえない」と回答した層では0.0%
 - ・「リタイアメントプラン」を意識して具体的に立案し、生活に反映している」と回

答した割合は、「リタイアメントプラン」立案を「重要」と回答した層では42.6%、「やや重要」と回答した層では8.2%、「どちらともいえない」と回答した層では0.0%

→まず「ライフプラン」「リタイアメントプラン」の考え方や意義を知り、個人の状況に応じた「重要性」を認識することで、具体的な立案や生活への反映に向けた一歩目を踏みだせることを調査結果は示唆している ※詳細は(6-2)(10-2)に掲載

4. 「資産形成」を行っている層の中にも、「ライフプラン」を意識せずに行っている層が認められる

- ・「ライフプランを意識しており、資産形成も行っている」割合は55.3%
- ・「ライフプランを意識したことはないが、資産形成は行っている」割合は19.8%

→「資産形成」は個人のライフイベントを想定し、立案した「ライフプラン」を意識して計画的に行うことが望ましいが、「ライフプラン」を意識せずに「資産形成」を行う層の存在が調査結果に現れている ※詳細は(14)に掲載

5. 円預貯金・円預貯金等以外の「資産形成」をそれぞれ「必要だと感じている」層の方が、「必要ないと感じている」層より「資産形成」を行っている

- ・「資産形成」の必要性について、「必要だと感じている」と回答した割合は、「ライフプランを意識しており、資産形成も行っている」と回答した層では94.9%、「ライフプランを意識したことはなく、資産形成も行っていない」層と回答した層では43.2%

→まず「資産形成」の考え方や意義を知り、個人の状況に応じた「必要性」を認識することで、「資産形成」を行うための一歩目を踏みだせることを調査結果は示唆している ※詳細は(15-1)(15-2)に掲載

6. 「家計管理」「ライフプラン」「リタイアメントプラン」「資産形成」の情報源について、「家計管理」は「雑誌」「書籍・参考書」「セミナーや講演会」の割合が高い。「ライフプラン」は「書籍・参考書」「勤務先の研修やセミナー」の割合が高い。「リタイアメントプラン」は「勤務先の研修やセミナー」の割合が高い。「資産形成」は「インターネットサイト」「銀行、保険、証券会社などの担当者」の割合が高い

- ・「家計管理」「ライフプラン」「リタイアメントプラン」「資産形成」の情報源に、それぞれ差が認められ、男女の差や世代の差も認められる

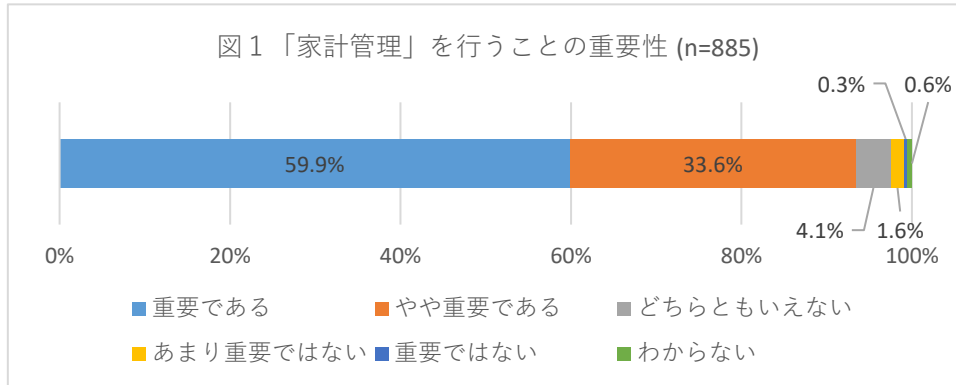
→情報源の「使い分け」があることが調査結果に現れている ※詳細は(4-2)に掲載

調査結果

1. 「家計管理（短期の生活設計）」に対する意識

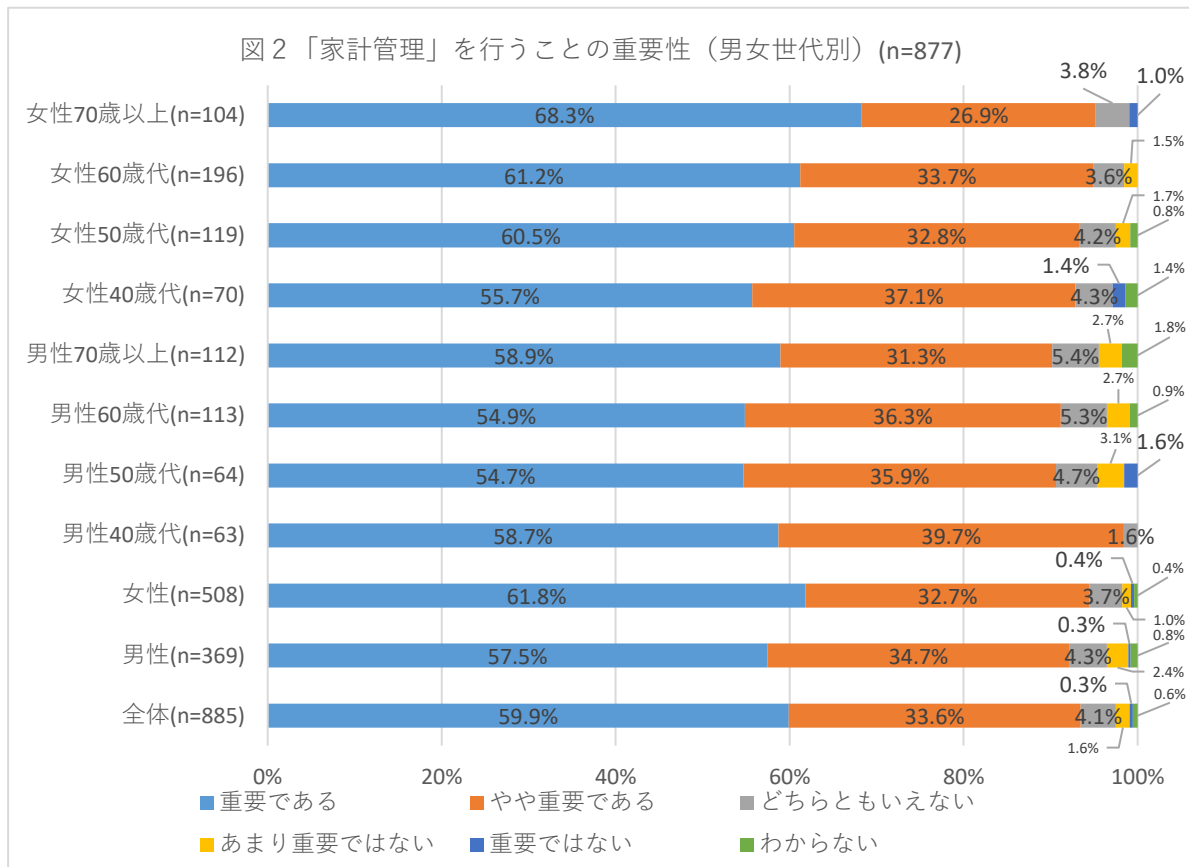
(1) 「家計管理」を行うことの重要性

・「家計管理」は「重要（重要／やや重要）」が93.5%



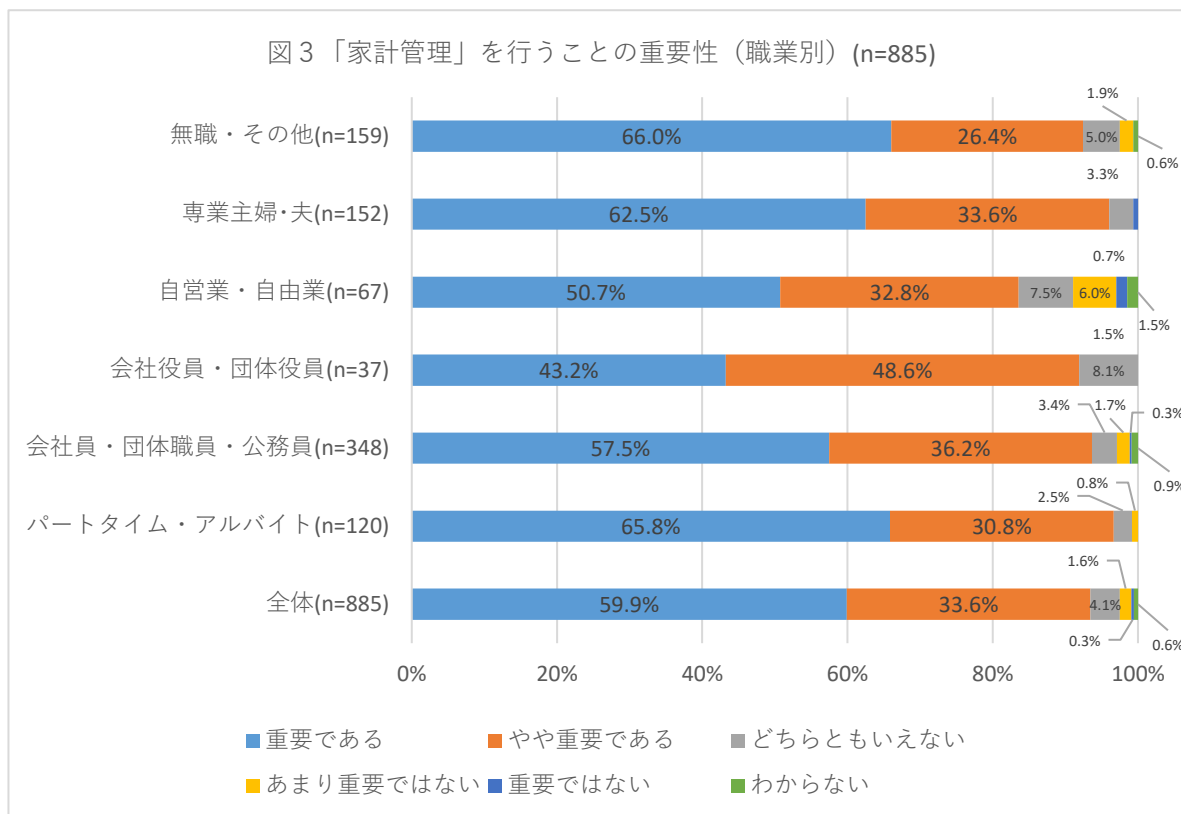
(1-1) 「家計管理」を行うことの重要性 男女世代別

・男女世代を問わず「家計管理」は「重要（重要／やや重要）」が高い（約90%）



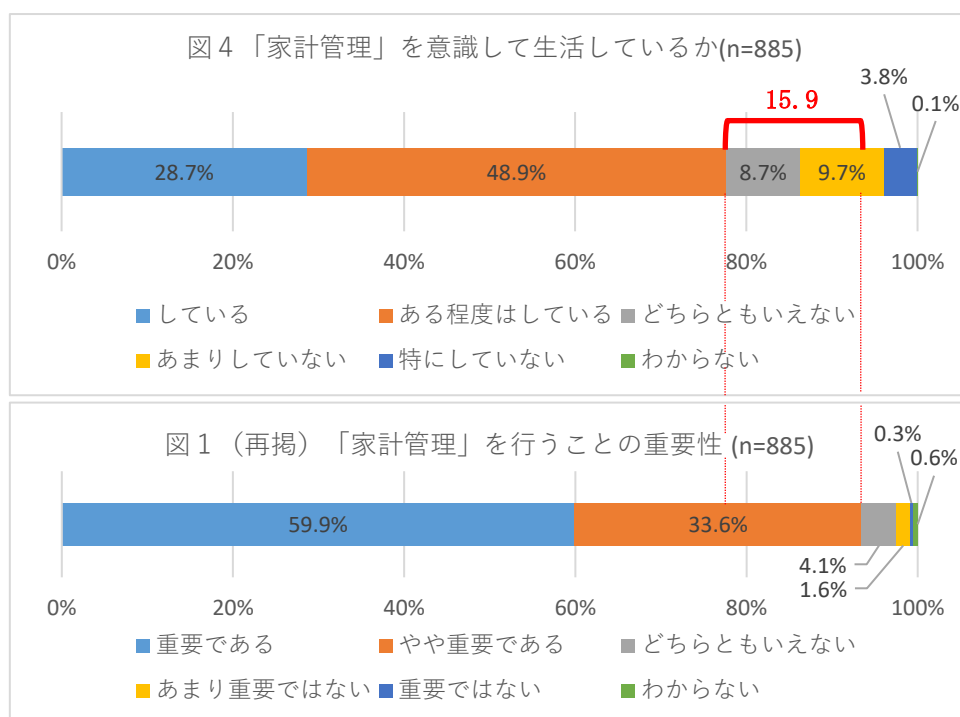
(1-2) 「家計管理」を行うことの重要性 職業別

- ・ 職業を問わず「家計管理」は「重要（重要／やや重要）」が高い（約90%）



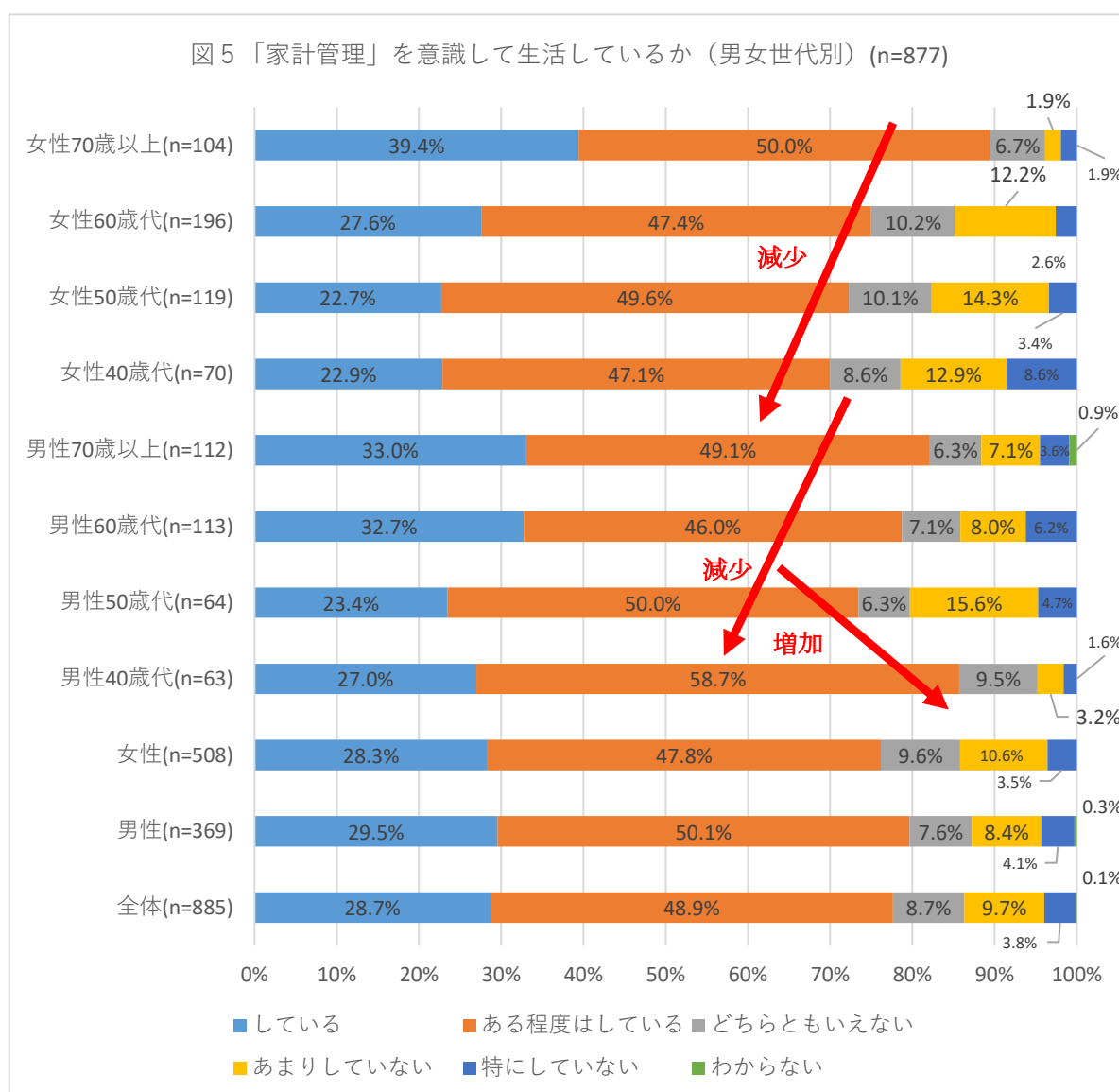
(2) 「家計管理」を意識して生活しているか

- ・「家計管理」を意識して生活「している（している／ある程度している）」は77.6%
- ・意識した生活を「ある程度はしている」が48.9%で最も多い
- ・「家計管理」を「重要（重要／やや重要）」と思う割合（93.5%）は高い一方で、「家計管理」を意識して生活「している」割合（77.6%）は低くなっている（15.9ポイント差）



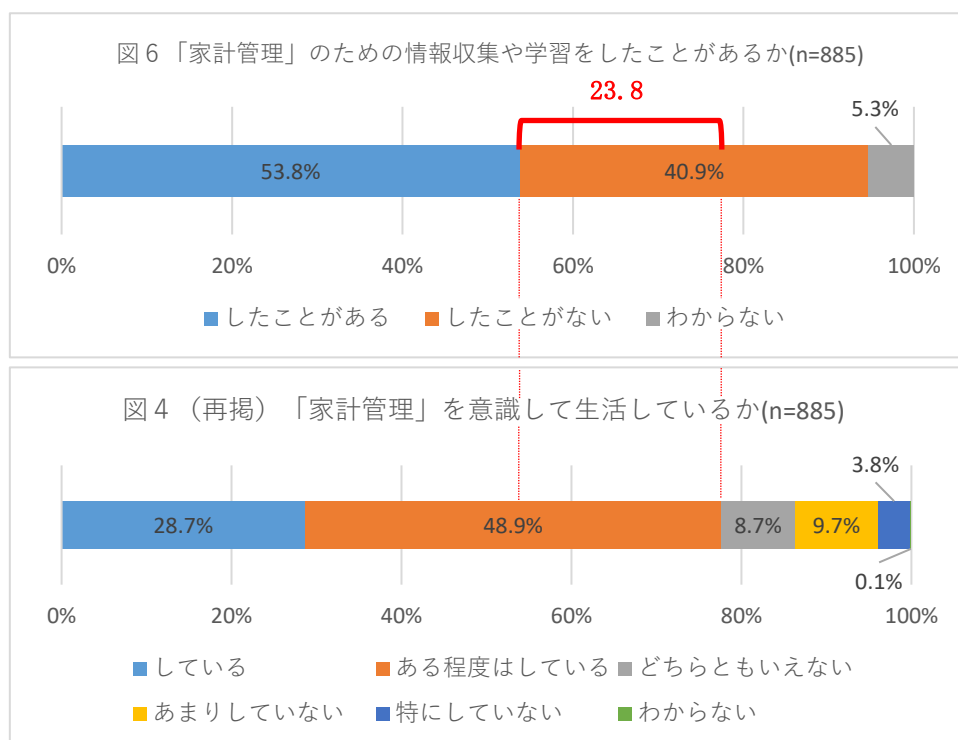
(2-1) 「家計管理」を意識して生活しているか 男女世代別

- ・ 女性は世代が下がるにつれて「家計管理」を意識して生活「している（している／ある程度している）」割合が少なくなっている
 (女性：70歳以上89.4%、60歳代75.0%、50歳代72.3%、40歳代70.0%)
- ・ 男性は70歳以上、60歳代、50歳代の順に「家計管理」を意識して生活「している」割合が少なくなっているが、40歳代では増加に転じている
 (男性：70歳以上82.1%、60歳代78.8%、50歳代73.4%、40歳代85.7%)



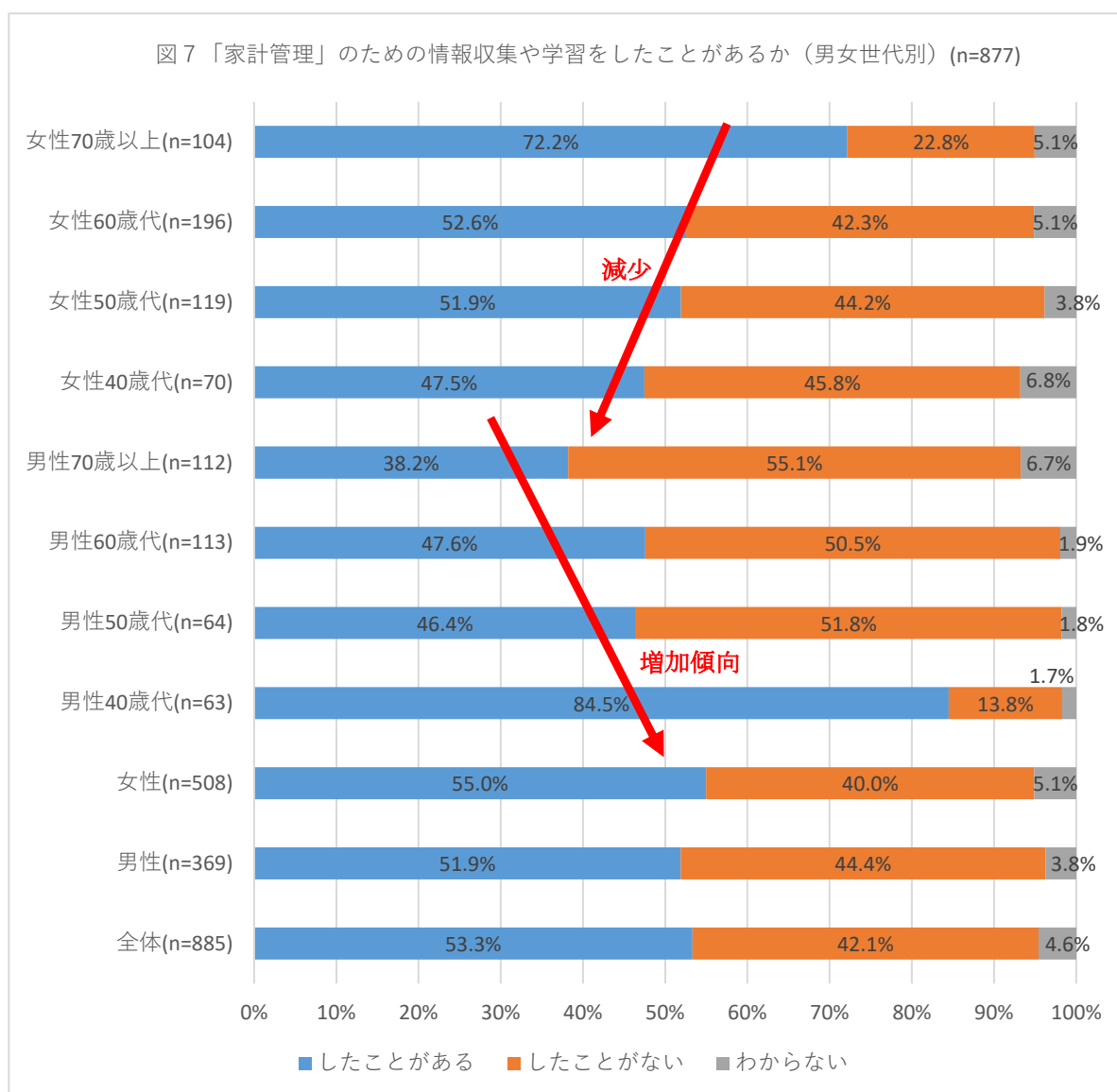
(3) 「家計管理」のための情報収集や学習をしたことがあるか

- ・「したことがある」(53.8%)が、「したことがない」(40.9%)を上回る
- ・「家計管理」を意識して生活「している(している/ある程度している)」割合(77.6%)と比べて、「家計管理」のための情報収集や学習を「したことがある」割合(53.8%)は少なくなっている(23.8%ポイント差)



(3-1) 「家計管理」のための情報収集や学習をしたことがあるか 男女世代別

- ・ 女性は世代が下がるにつれて情報収集や学習を「したことがある」割合が少なくなっている(女性: 70歳以上72.2%、60歳代52.6%、50歳代51.9%、40歳代47.5%)
- ・ 男性は世代が下がるにつれて情報収集や学習を「したことがある」割合が多くなる傾向がある(男性: 70歳以上38.2%、60歳代47.6%、50歳代46.4%、40歳代84.5%)
- ・ 「家計管理」のための情報収集や学習は、女性の方が男性より「したことがある」割合が高い(女性: 55.0%、男性: 51.9%)



(4) 「家計管理」の情報源 ※(3)で「したことがある」と回答した476名へ調査

- ・「家計管理」の情報源上位5項目は、「雑誌」(50.8%)、「書籍・参考書」(47.1%)、「新聞」(44.7%)、「インターネットサイト」(35.5%)、「テレビ」(33.8%)
- ・男性の上位5項目は、「雑誌」(47.4%)、「書籍・参考書」(46.9%)、「インターネットサイト」(43.8%)、「新聞」(43.3%)、「テレビ」(30.4%)。「インターネットサイト」が全体より高い
- ・女性の上位5項目は、「雑誌」(53.6%)、「書籍・参考書」(47.1%)、「新聞」(46.1%)、「テレビ」(36.4%)、「セミナーや講演会」(35.4%)。「テレビ」が全体より高い

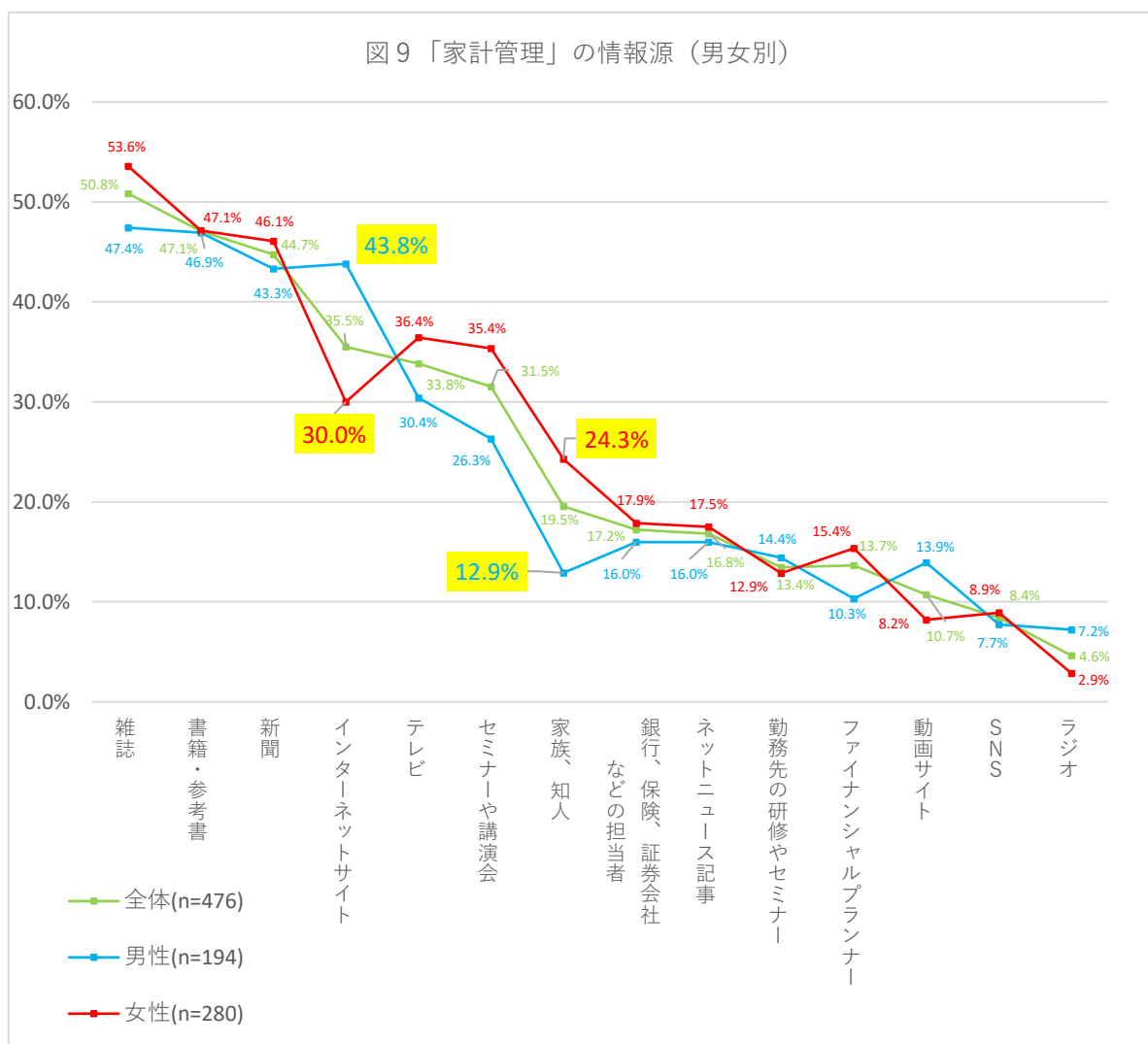
図8 「家計管理」の情報源 上位5項目 (全体・男女別)

順位	全体(n=476)	男性(n=194)	女性(n=280)
1	雑誌 (50.8%)	雑誌 (47.4%)	雑誌 (53.6%)
2	書籍・参考書 (47.1%)	書籍・参考書 (46.9%)	書籍・参考書 (47.1%)
3	新聞 (44.7%)	インターネットサイト (43.8%)	新聞 (46.1%)
4	インターネットサイト (35.5%)	新聞 (43.3%)	テレビ (36.4%)
5	テレビ (33.8%)	テレビ (30.4%)	セミナーや講演会 (35.4%)

(複数回答)

(4-1) 「家計管理」の情報源 男女別

- ・「家計管理」の情報源として、男性が女性を大きく上回った項目は「インターネットサイト」(全体35.5%、男性43.8%、女性30.0%、男女差13.8ポイント)
- ・女性が男性を大きく上回った項目は「家族・知人」(全体19.5%、男性12.9%、女性24.3%、男女差11.4ポイント)



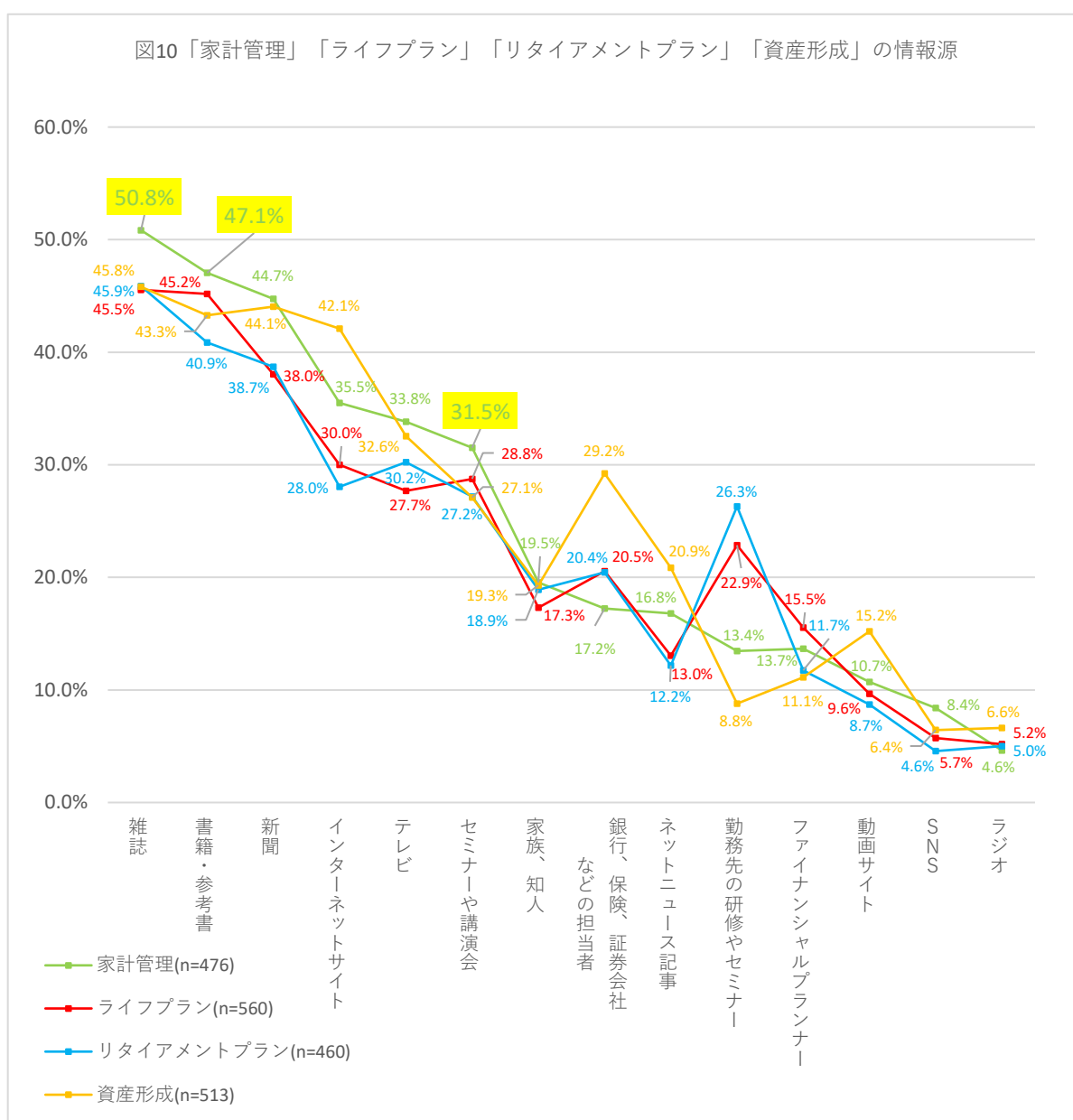
(複数回答)

(4-2) 「家計管理」の情報源

「ライフプラン」「リタイアメントプラン」「資産形成」の情報源との比較

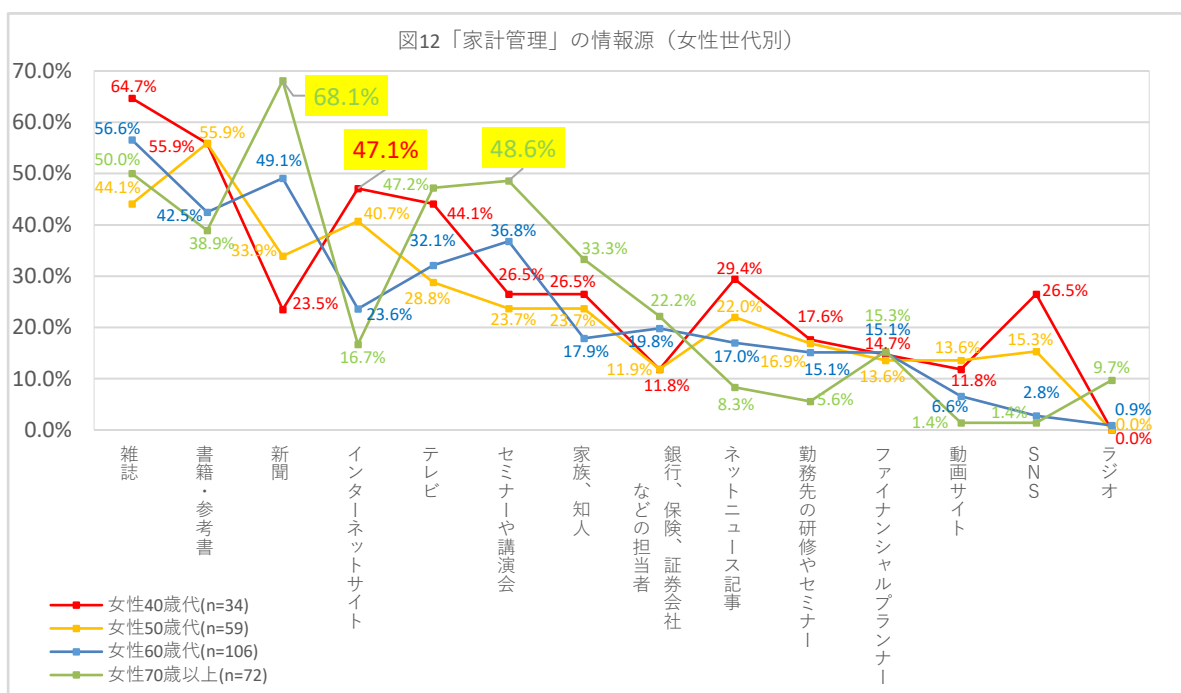
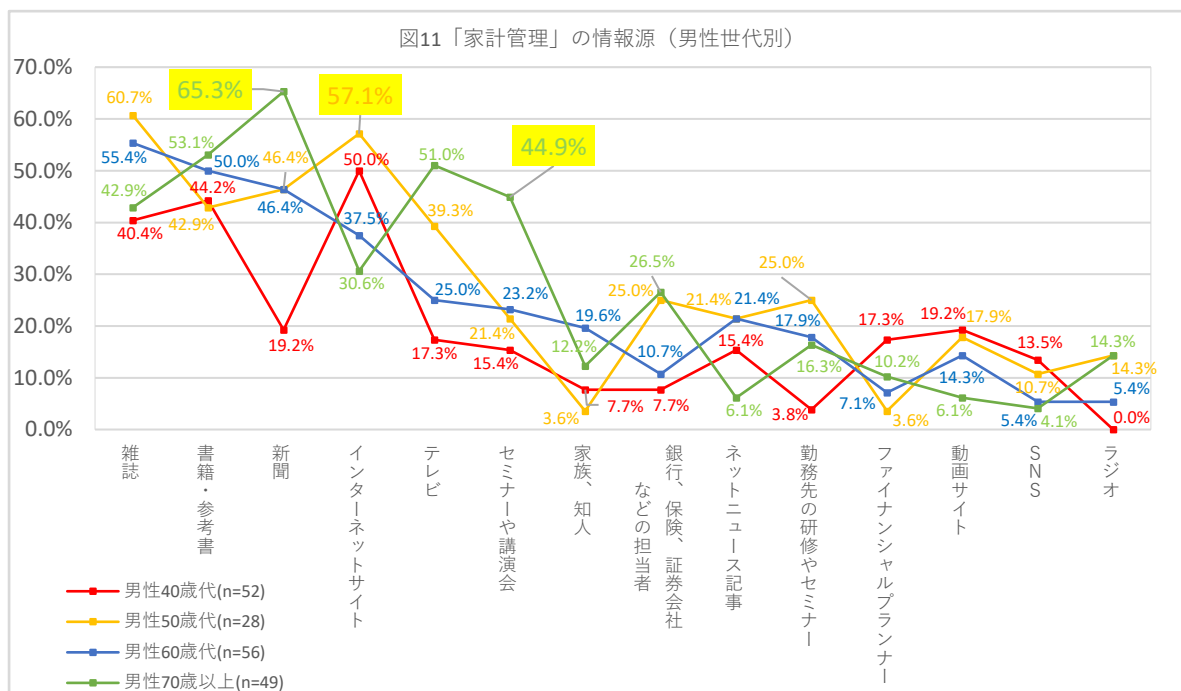
- ・「ライフプラン」「リタイアメントプラン」「資産形成」と比べて、「家計管理」の情報源は「雑誌」「書籍・参考書」「セミナーや講演会」が多い

※「ライフプラン」は(8)、「リタイアメントプラン」は(12)、「資産形成」は(19)に詳細を掲載



(4-3) 「家計管理」の情報源 男女世代別

- ・「家計管理」の情報源として、男女とも世代が下がるにつれて「インターネットサイト」の割合が高くなっている
- ・男女とも世代が下がるにつれて「新聞」「セミナーや講演会」の割合が低くなる傾向がある

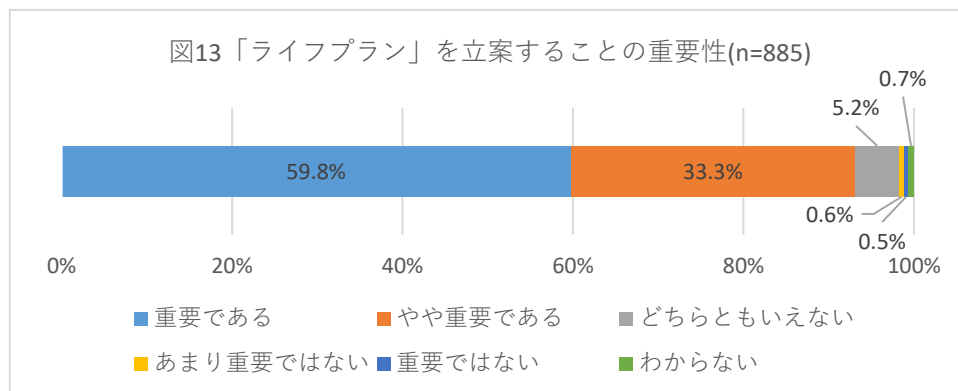


(複数回答)

2. 「ライフプラン（長期の生活設計）」に対する意識

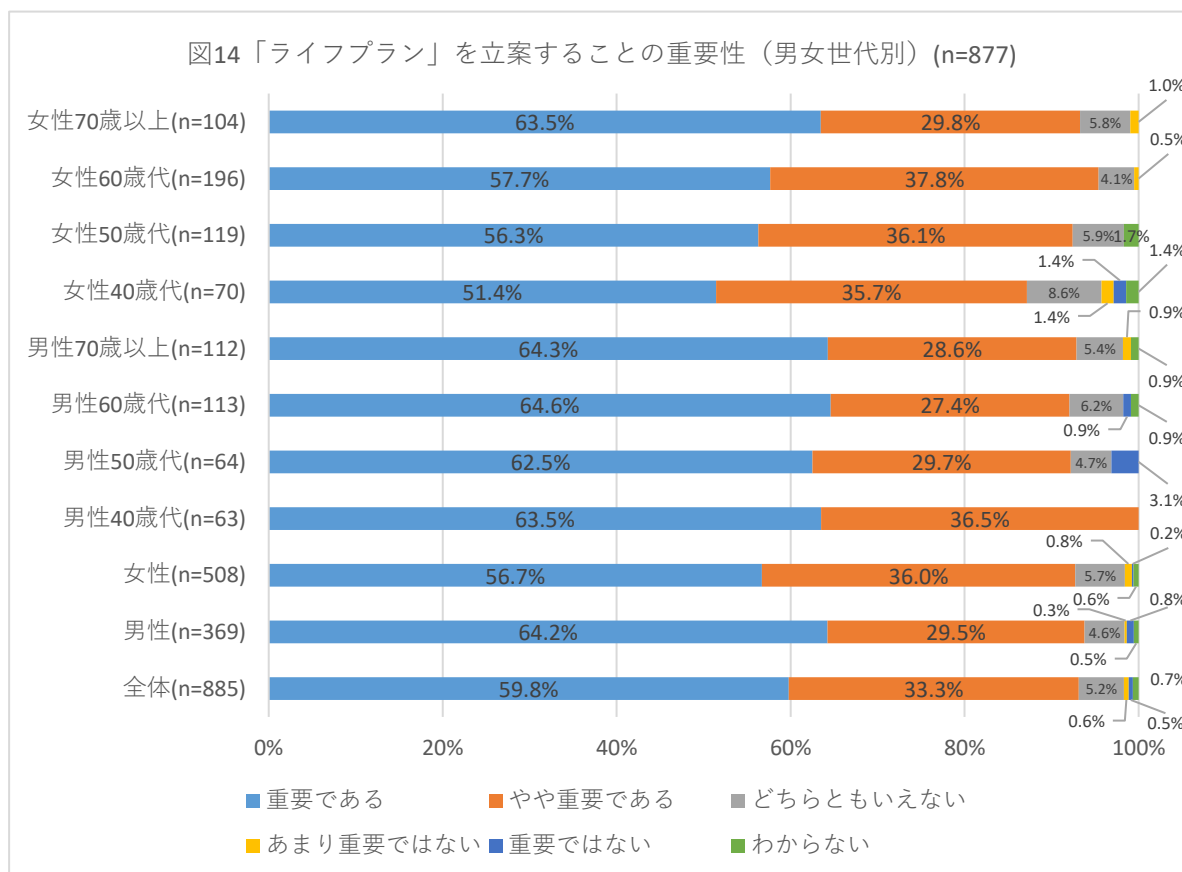
(5) 「ライフプラン」を立案することの重要性

- ・「ライフプラン」の立案は「重要（重要／やや重要）」が93.1%



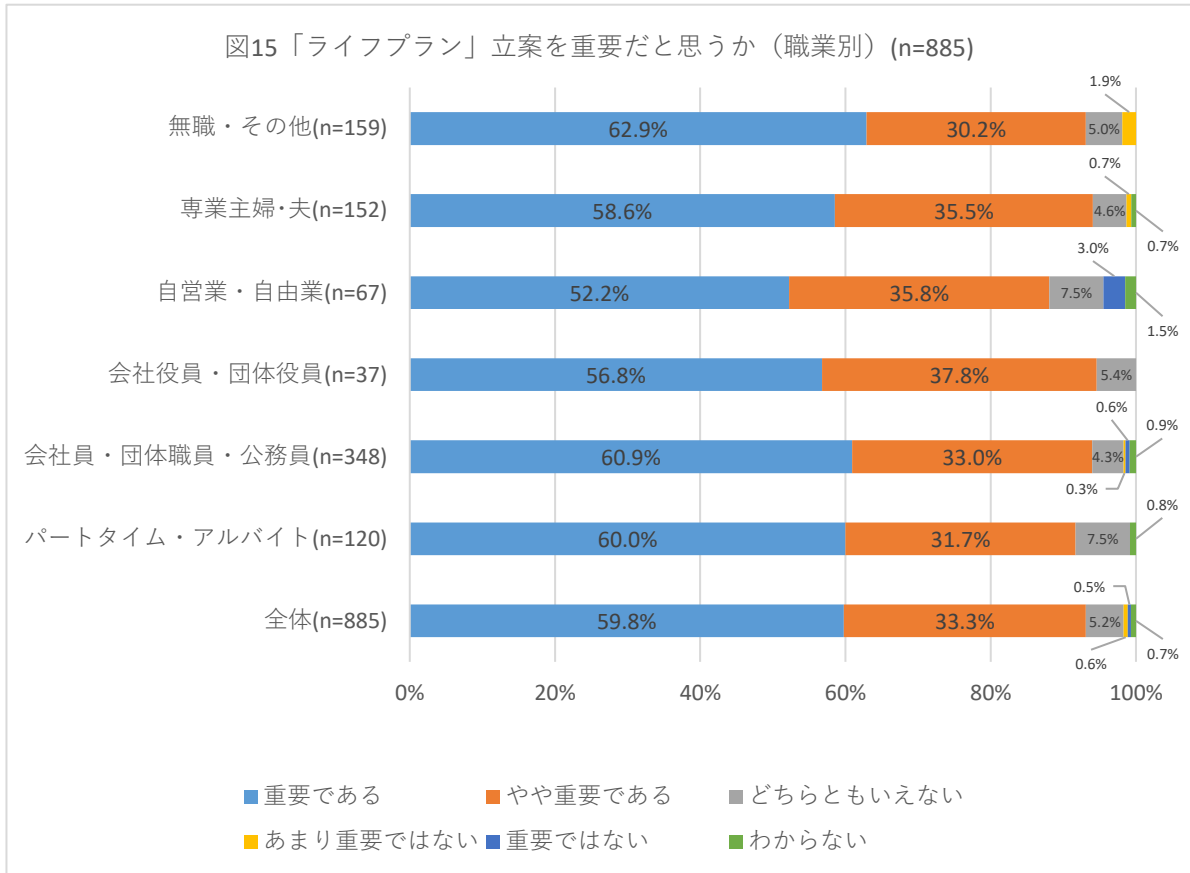
(5-1) 「ライフプラン」を立案することの重要性 男女世代別

- ・男女世代を問わず「ライフプラン」の立案は「重要（重要／やや重要）」が高い（約90%）



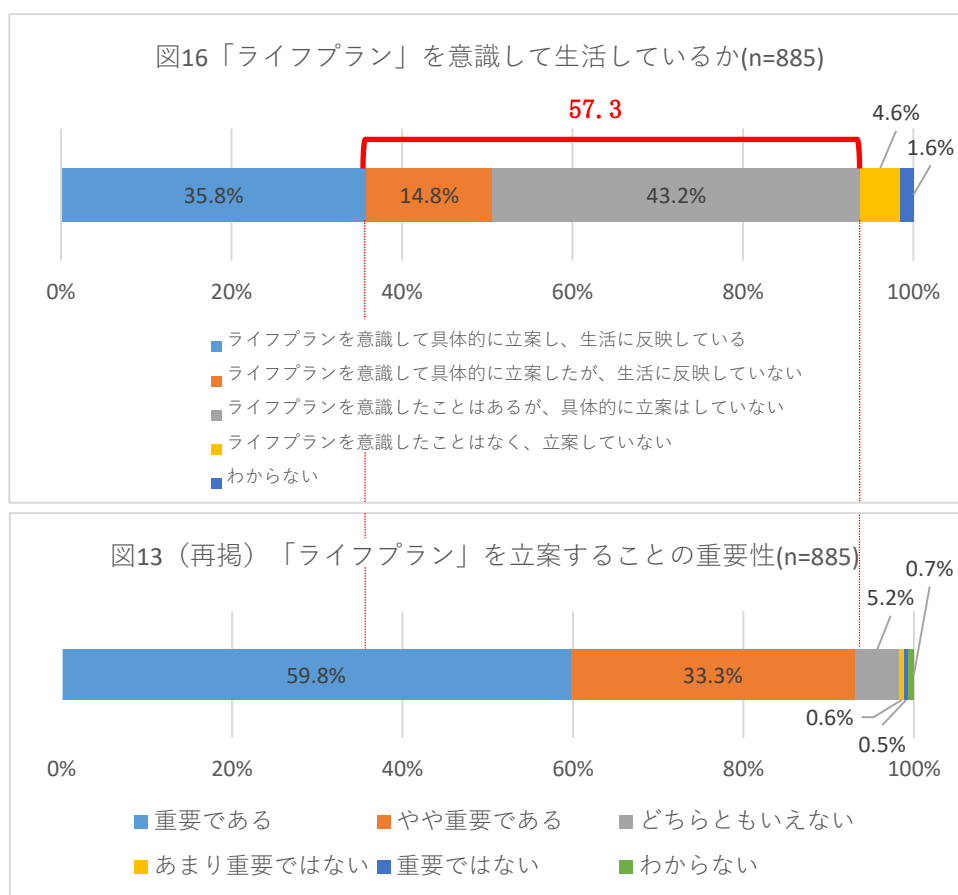
(5-2) 「ライフプラン」を立案することの重要性 職業別

・職業を問わず「ライフプラン」の立案は「重要(重要/やや重要)」が高い(約90%)



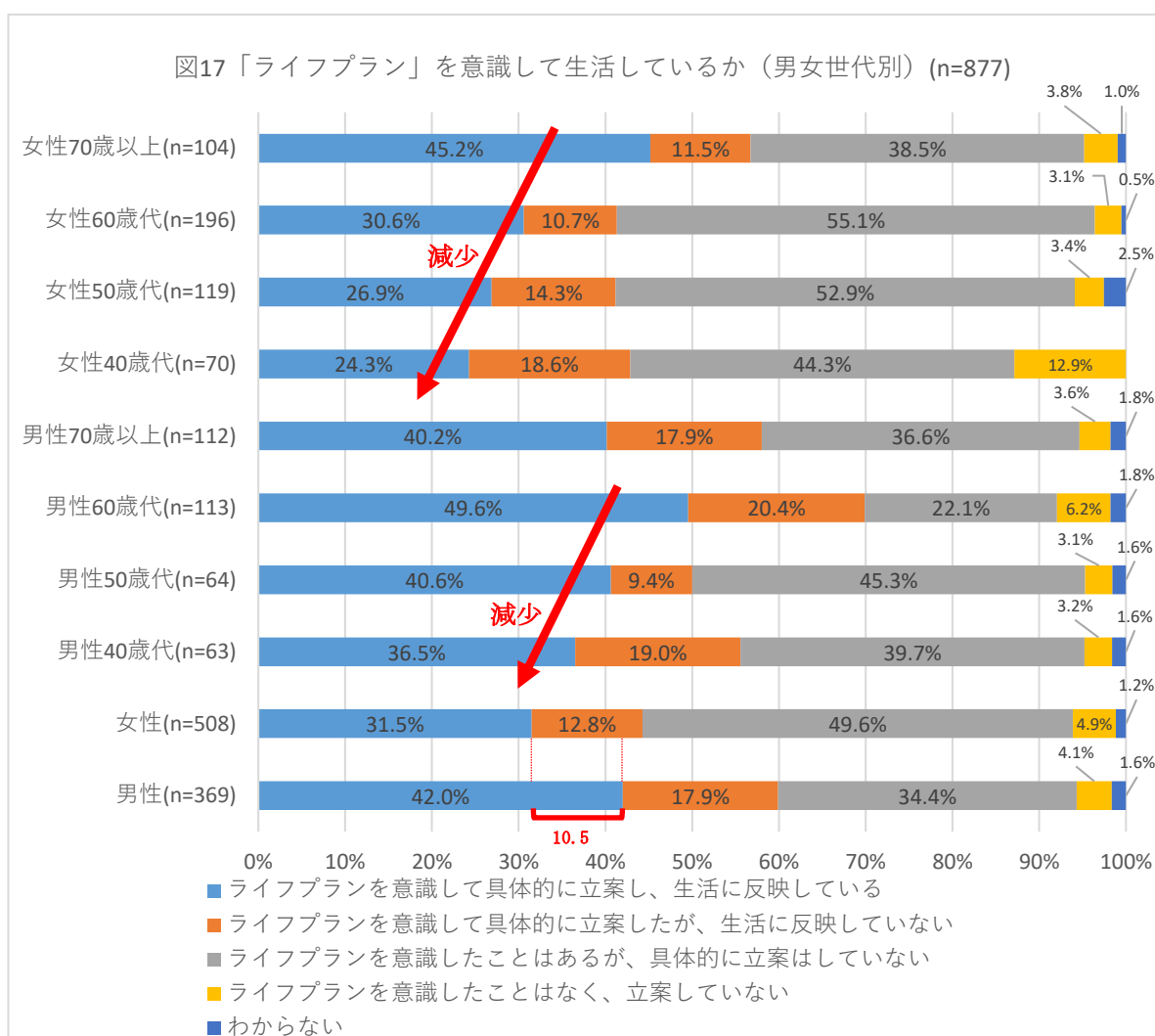
(6) 「ライフプラン」を意識して生活しているか

- ・「ライフプランを意識して具体的に立案し、生活に反映している」が35.8%
- ・「ライフプランを意識したことはあるが、具体的に立案はしていない」が43.2%
- ・「ライフプラン」の立案を「重要（重要／やや重要）」だと思う割合（93.1%）は高い一方で、「ライフプランを意識して具体的に立案し、生活に反映している」割合（35.8%）は、大幅に低くなっている（57.3ポイント差）



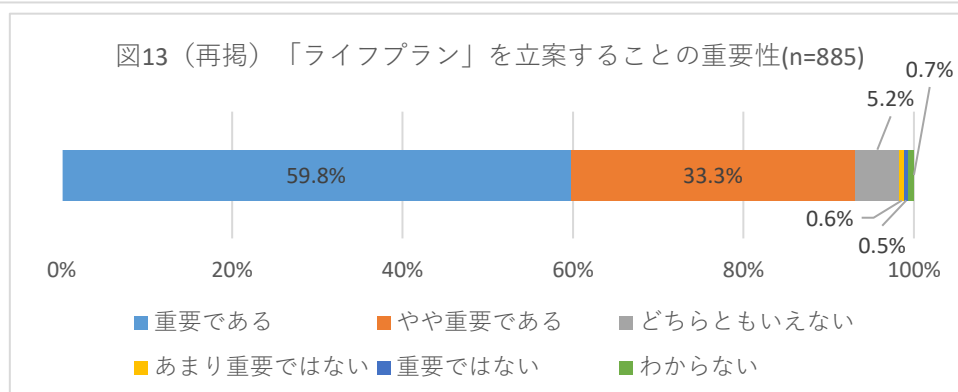
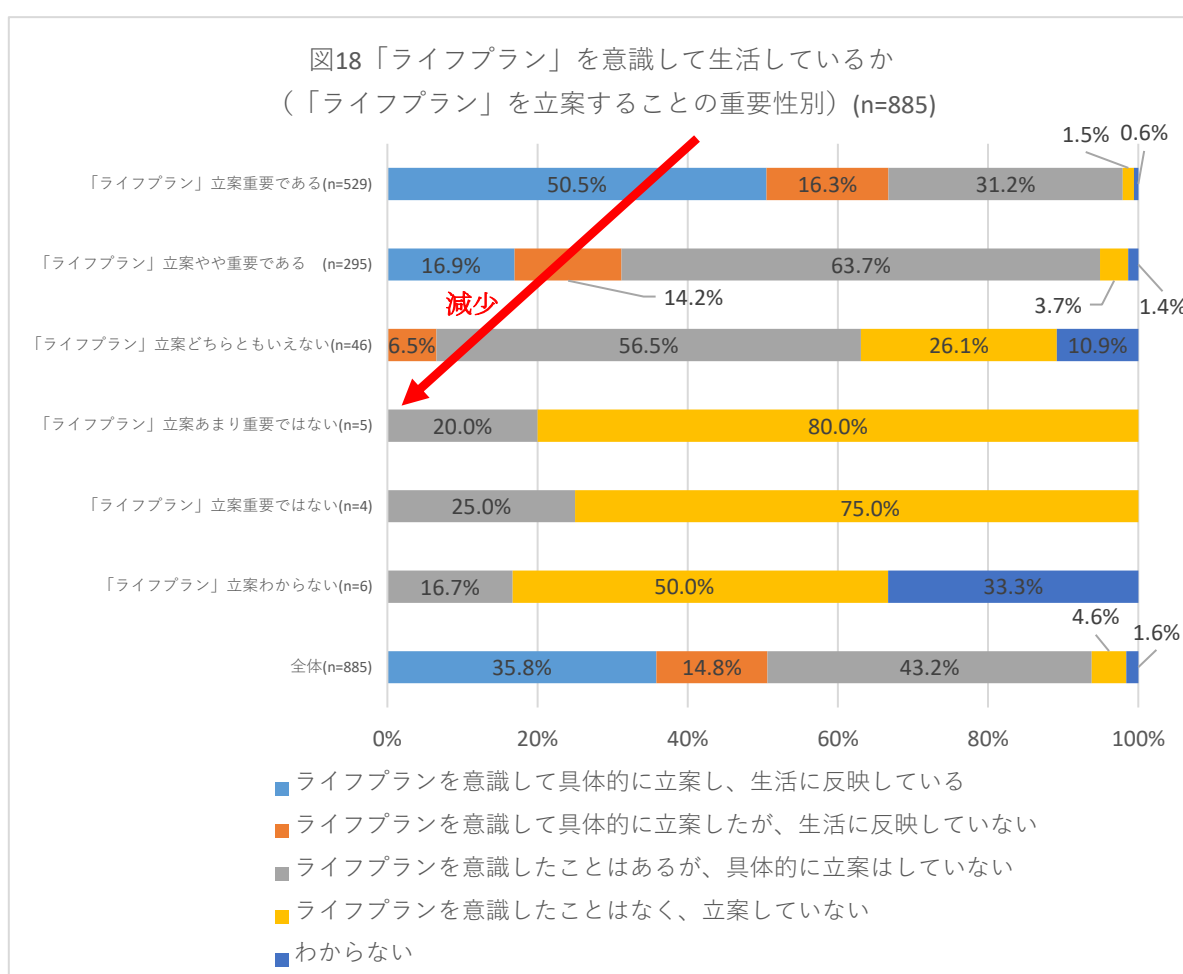
(6-1) 「ライフプラン」を意識して生活しているか 男女世代別

- ・ 女性は世代が下がるにつれて「ライフプラン」を立案し、生活に反映している割合が少なくなっている(女性：70歳以上45.2%、60歳代30.6%、50歳代26.9%、40歳代24.3%)
- ・ 男性は世代が下がるにつれて「ライフプラン」を立案し、生活に反映している割合が少なくなる傾向がある(男性：60歳代49.6%、50歳代40.6%、40歳代36.5%)
- ・ 70歳以上では、女性の方が男性より「ライフプラン」を立案し、生活に反映している。60歳代、50歳代、40歳代では、男性の方が女性より「ライフプラン」を立案し、生活に反映している
- ・ 男女で「ライフプラン」を立案し、生活に反映している割合に差がある(女性：31.5%、男性：42.0%、10.5ポイント差)



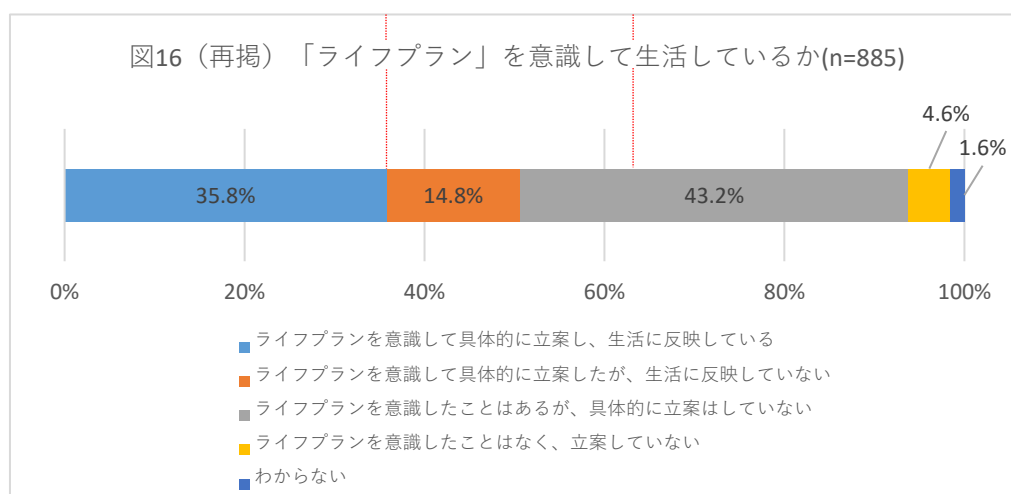
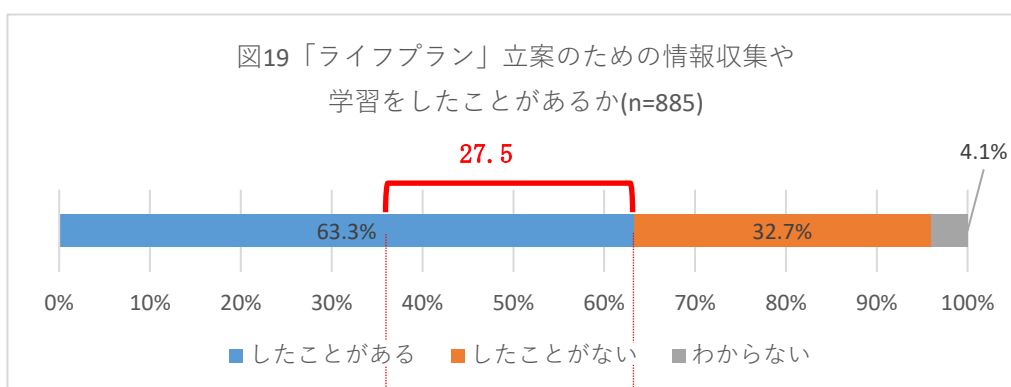
(6-2) 「ライフプラン」を意識して生活しているか 「ライフプラン」を立案することの重要性別

- ・「ライフプラン」を立案することの重要性を、「重要」と回答した人のうち、50.5%が実際に「ライフプラン」を立案し、生活に反映している。「やや重要」と回答した人のうち、16.9%が実際に「ライフプラン」を立案し、生活に反映している
- ・「ライフプラン」を立案することの重要性を、「重要」と回答した人は「やや重要」「どちらともいえない」と回答した人と比べて、「ライフプラン」を立案し、生活に反映している割合が高い



(7) 「ライフプラン」立案のための情報収集や学習をしたことがあるか

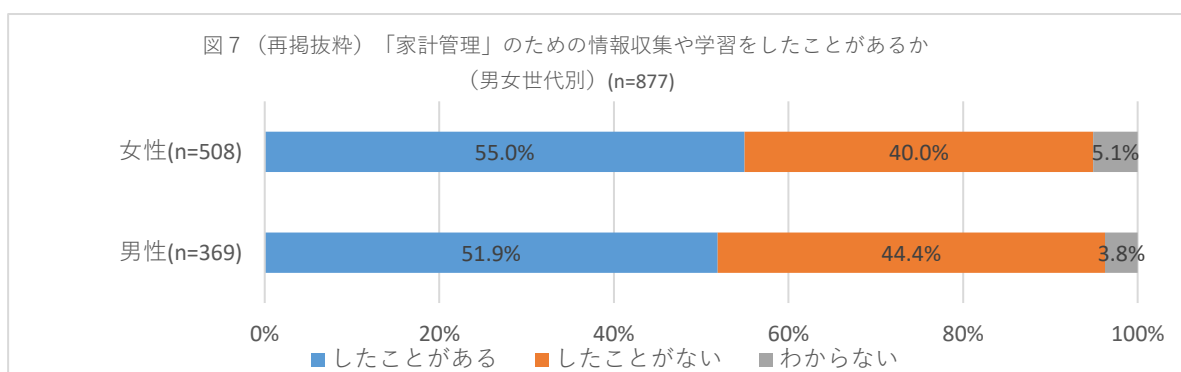
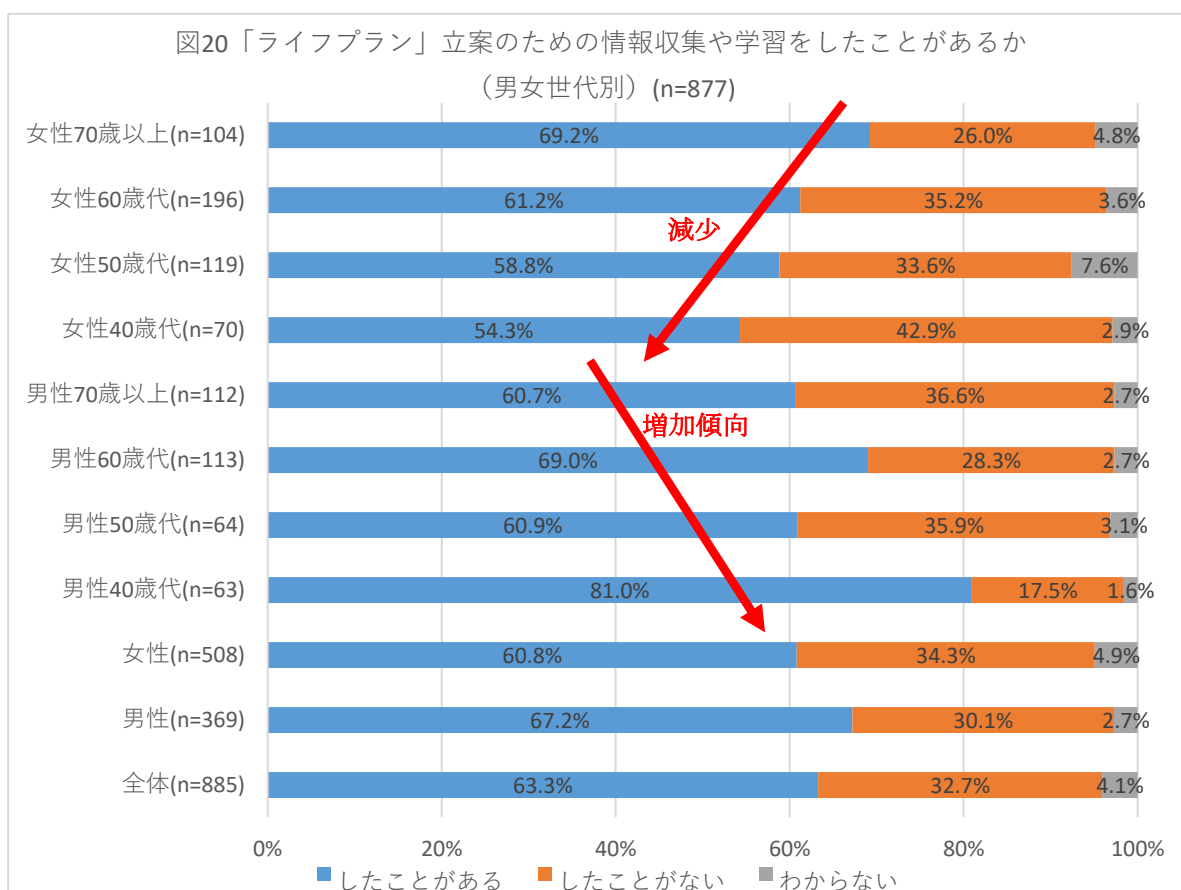
- ・「したことがある」の63.3%が、「したことがない」の32.7%を上回る
- ・「ライフプラン」立案のための情報収集や学習を「したことがある」割合（63.3%）は高い一方で、「ライフプラン」を「立案し、生活に反映している」割合（35.8%）は低くなっている（27.5ポイント差）



(7-1) 「ライフプラン」立案のための情報収集や学習をしたことがあるか 男女世代別

- ・ 女性は世代が下がるにつれて情報収集や学習を「したことがある」割合が少なくなっている(女性:70歳以上69.2%、60歳代61.2%、50歳代58.8%、40歳代54.3%)
- ・ 男性は世代が下がるにつれて情報収集や学習を「したことがある」割合が多くなる傾向がある(男性:70歳以上60.7%、60歳代69.0%、50歳代60.9%、40歳代81.0%)
- ・ 「ライフプラン」立案のための情報収集や学習は、男性の方が女性より「したことがある」割合が高い(男性:67.2%、女性:60.8%)

※参考:「家計管理」のための情報収集や学習は、女性の方が男性より「したことがある」割合が高い(女性:55.0%、男性:51.9%)



(8) 「ライフプラン」立案の情報源 ※(7)で「したことがある」と回答した560名へ調査

- ・「ライフプラン」立案の情報源上位5項目は、「雑誌」(45.5%)、「書籍・参考書」(45.2%)、「新聞」(38.0%)、「インターネットサイト」(30.0%)、「セミナーや講演会」(28.8%)
- ・男性の上位5項目は、「書籍・参考書」(46.4%)、「雑誌」(41.9%)、「新聞」(36.3%)、「インターネットサイト」(35.1%)、「勤務先の研修やセミナー」(25.8%)。「勤務先の研修やセミナー」が全体より高い
- ・女性の上位5項目は、「雑誌」(48.5%)、「書籍・参考書」(44.3%)、「新聞」(39.5%)、「セミナーや講演会」(33.0%)、「テレビ」(29.8%)。「セミナーや講演会」が全体より高い

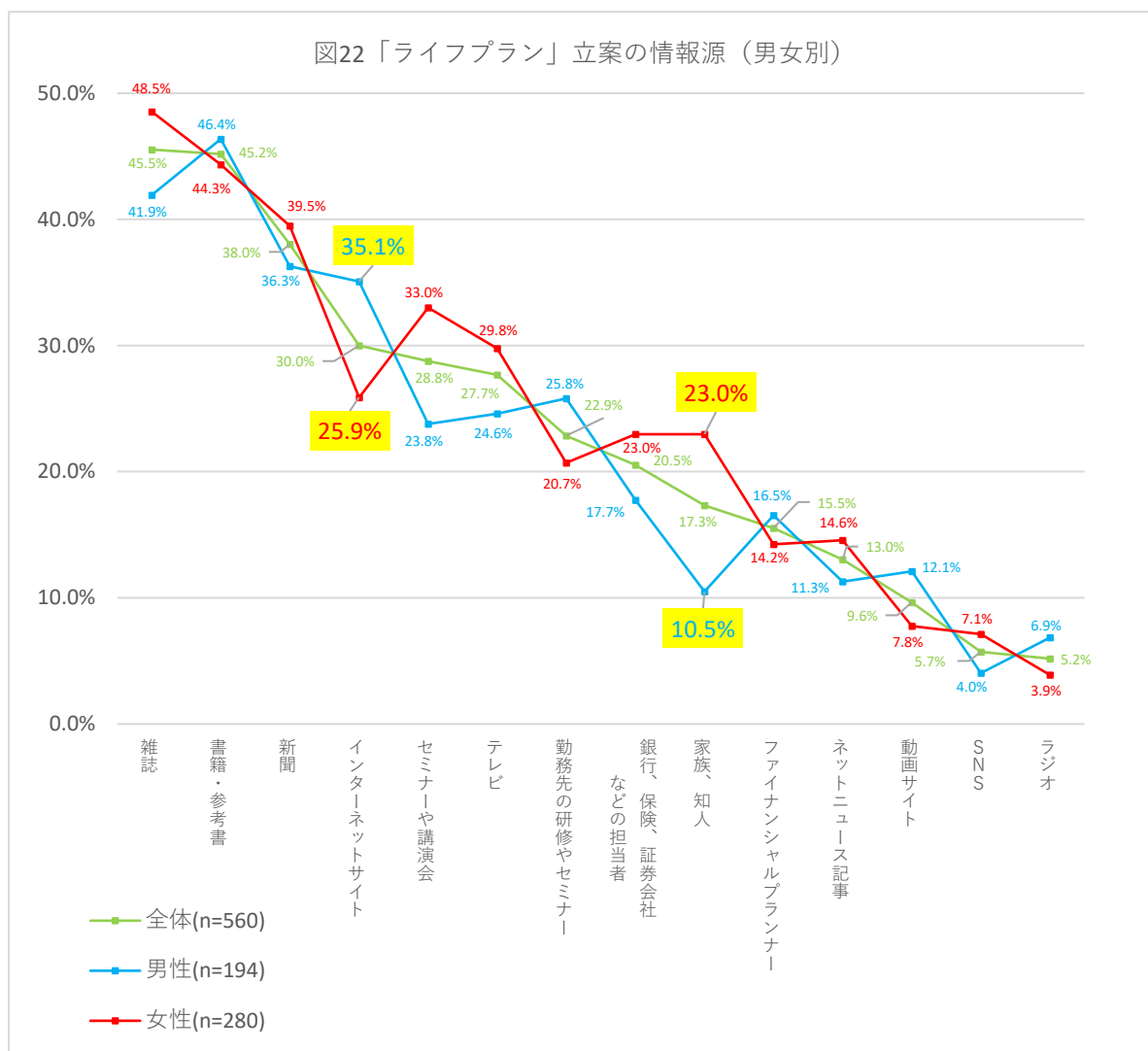
図21 「ライフプラン」策定の情報収集源 上位5項目 (全体・男女別)

順位	全体(n=560)	男性(n=248)	女性(n=309)
1	雑誌 (45.5%)	書籍・参考書 (46.4%)	雑誌 (48.5%)
2	書籍・参考書 (45.2%)	雑誌 (41.9%)	書籍・参考書 (44.3%)
3	新聞 (38.0%)	新聞 (36.3%)	新聞 (39.5%)
4	インターネットサイト (30.0%)	インターネットサイト (35.1%)	セミナーや講演会 (33.0%)
5	セミナーや講演会 (28.8%)	勤務先の研修やセミナー (25.8%)	テレビ (29.8%)

(複数回答)

(8-1) 「ライフプラン」立案の情報源 男女別

- ・「ライフプラン」立案の情報源として、男性が女性を大きく上回ったのは「インターネットサイト」(全体30.0%、男性35.1%、女性25.9%、男女差9.2%ポイント)
- ・女性が男性を大きく上回ったのは「家族・知人」(全体17.3%、男性10.5%、女性23.0%、男女差12.5ポイント)



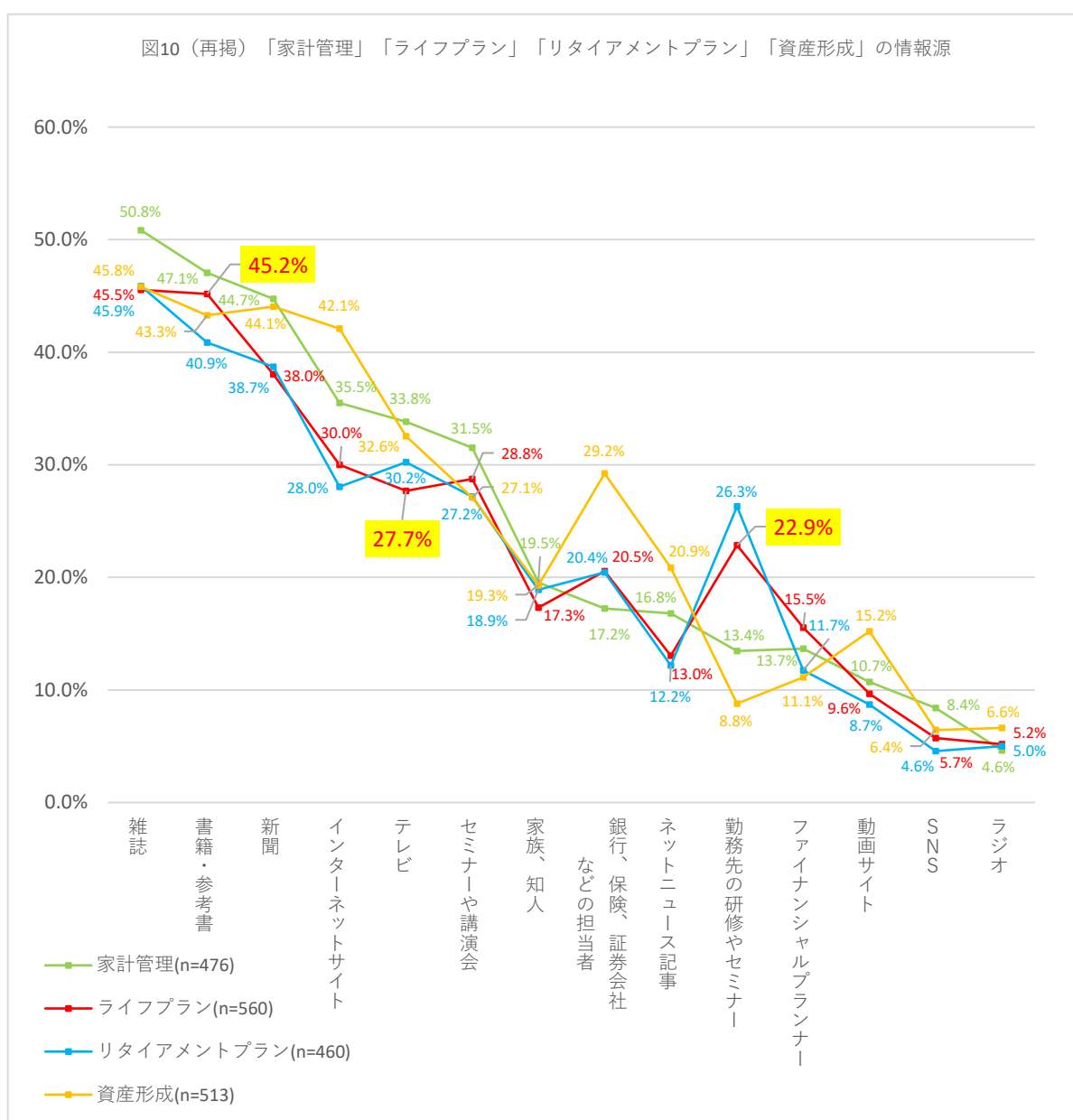
(複数回答)

(8-2) 「ライフプラン」立案の情報源

「家計管理」「リタイアメントプラン」「資産形成」の情報源との比較

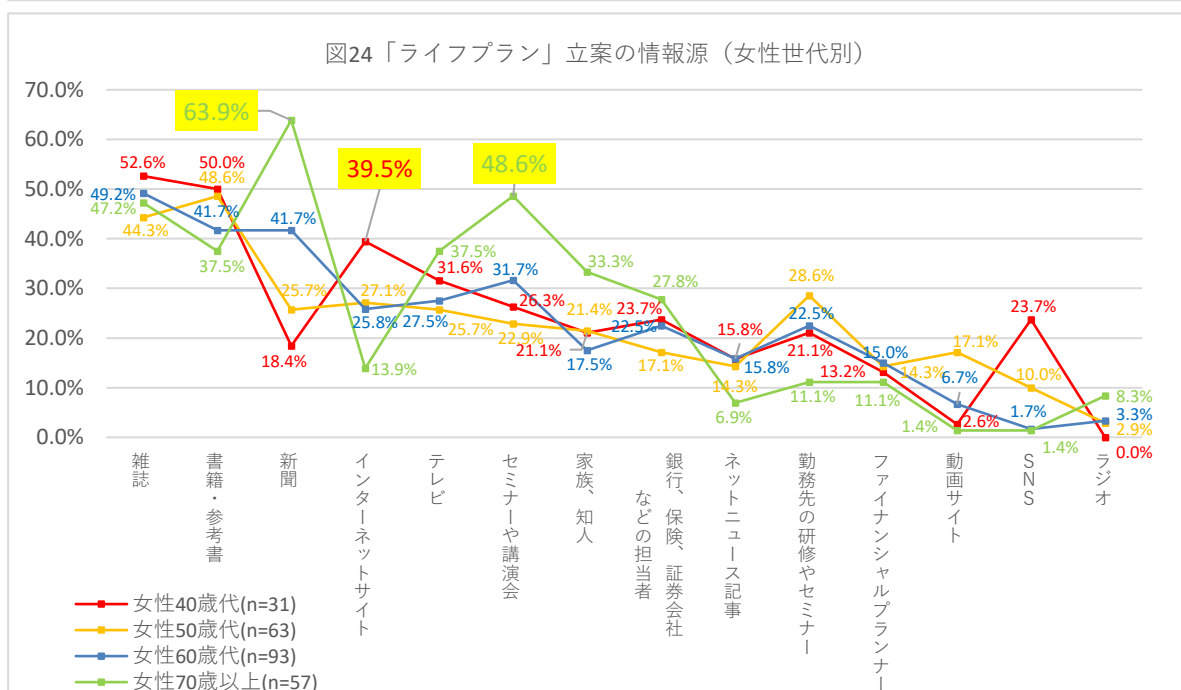
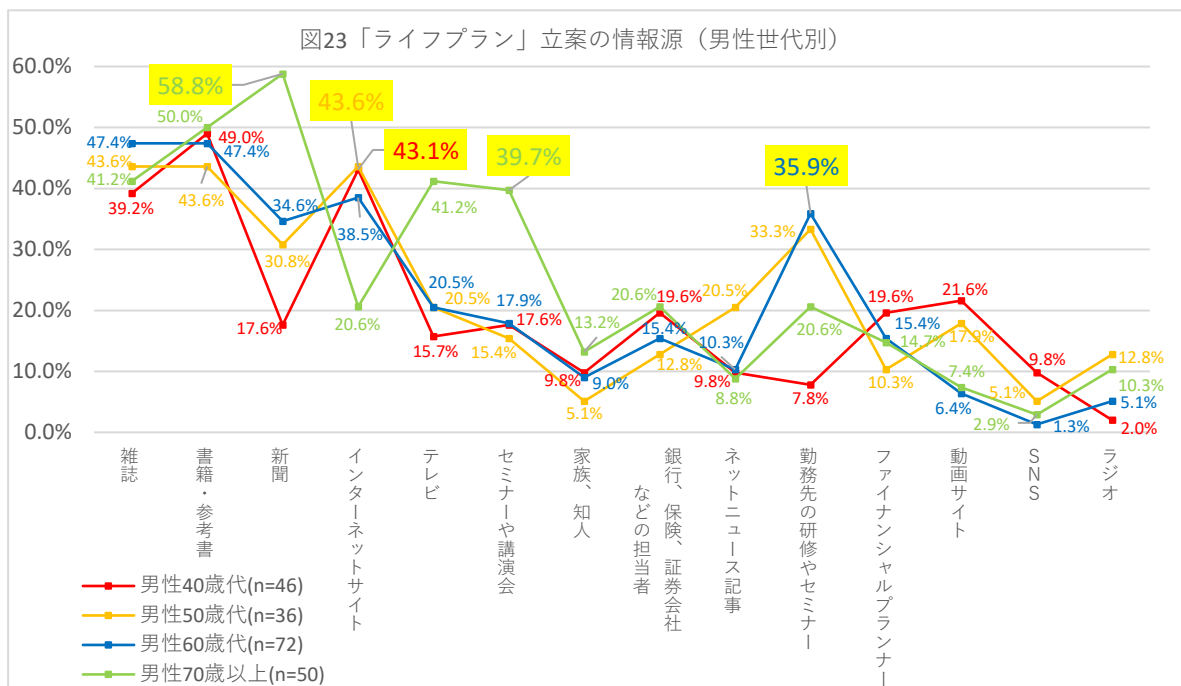
- ・「家計管理」「リタイアメントプラン」「資産形成」と比べて、「ライフプラン」立案の情報源は「書籍・参考書」「勤務先の研修やセミナー」が多い

※「家計管理」は(4)、「リタイアメントプラン」は(12)、「資産形成」は(19)に詳細を掲載



(8-3) 「ライフプラン」立案の情報源 男女世代別

- ・「ライフプラン」立案の情報源として、男女とも世代が下がるにつれて「インターネットサイト」の割合が高くなっている
- ・男女とも世代が下がるにつれて「新聞」「セミナーや講演会」の割合が低くなる傾向がある

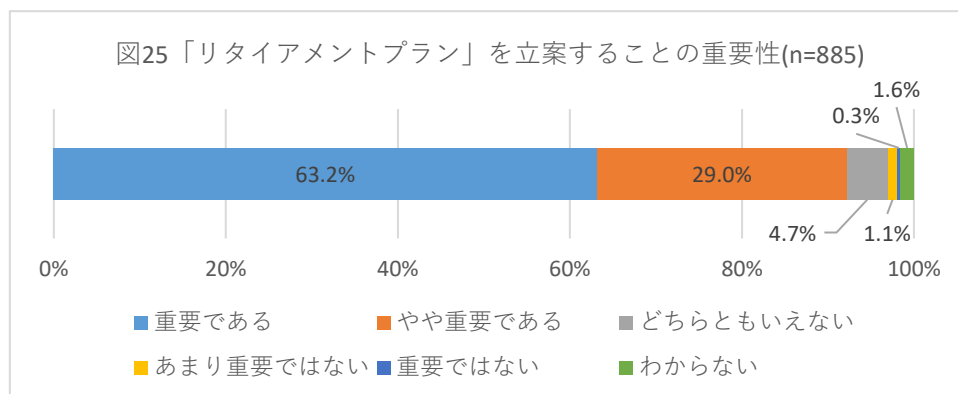


(複数回答)

3. 「リタイアメントプラン（老後計画）」に対する意識

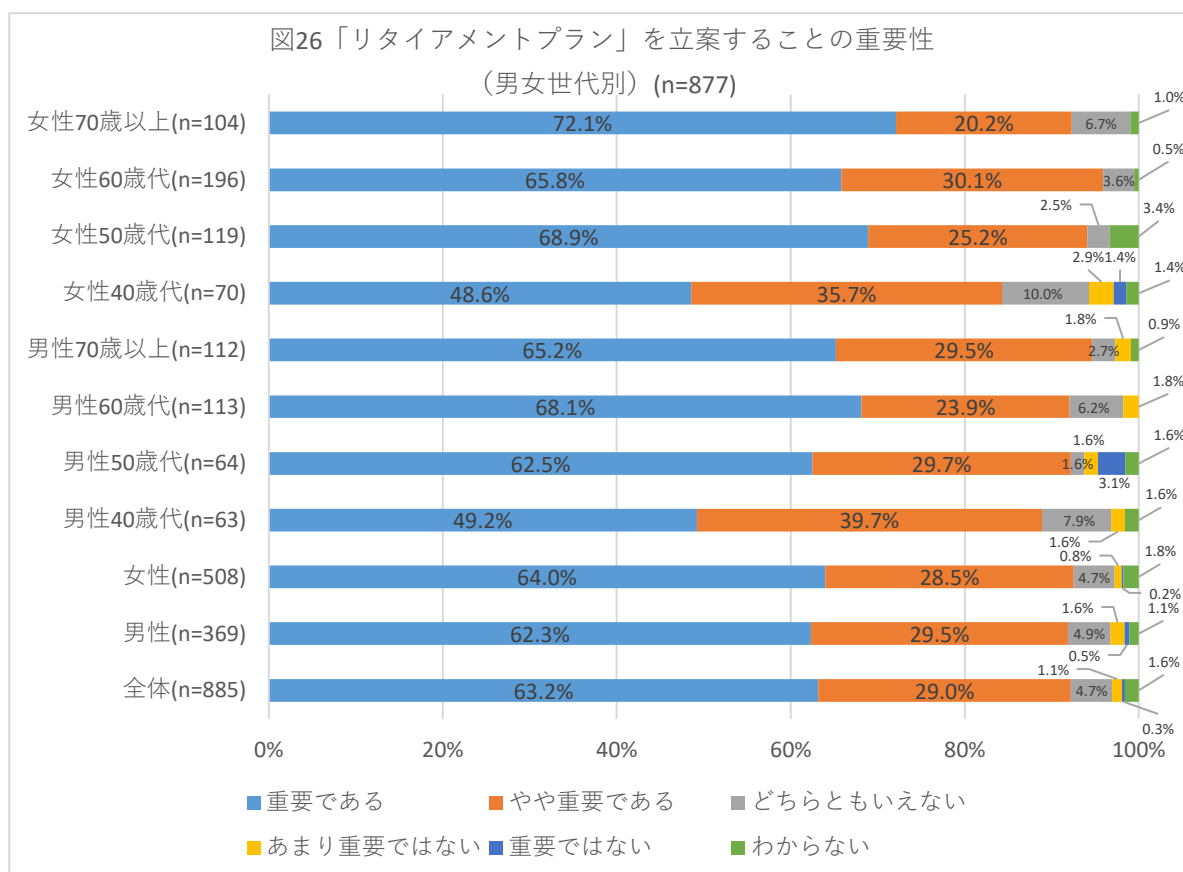
(9) 「リタイアメントプラン」を立案することの重要性

- ・「リタイアメントプラン」の立案は「重要（重要／やや重要）」が92.2%



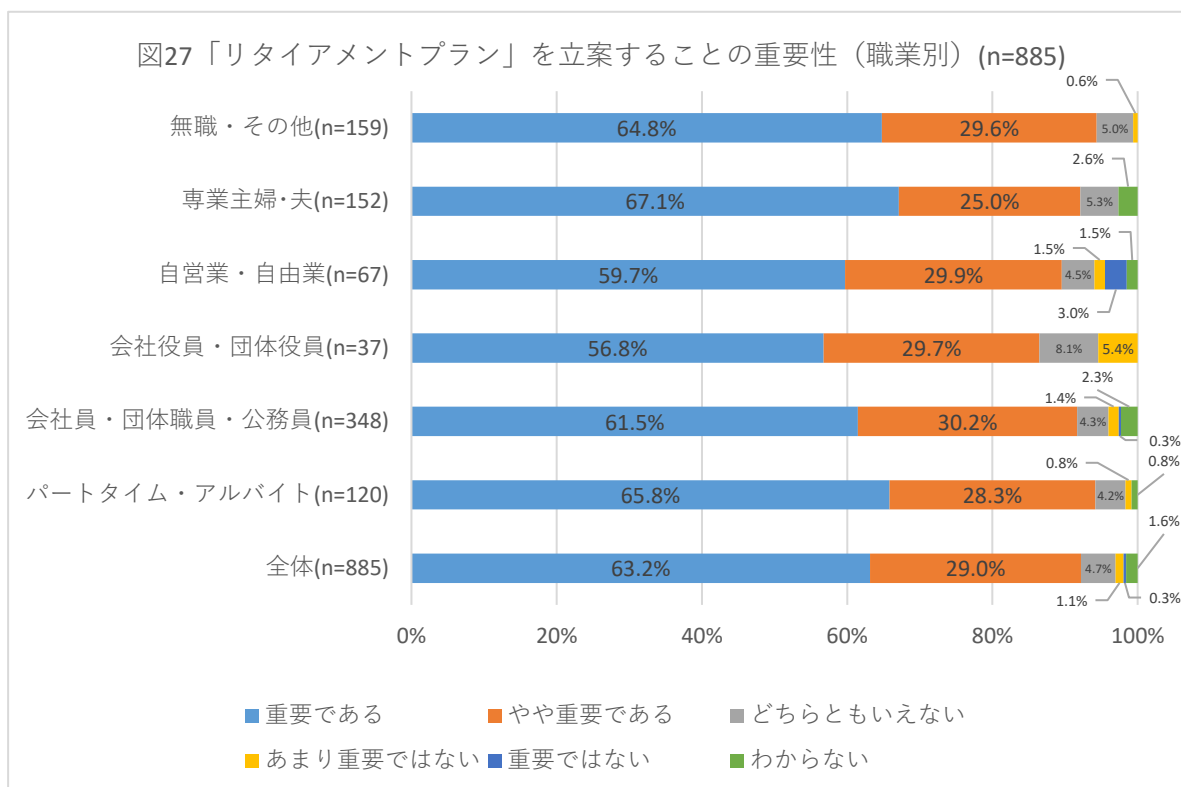
(9-1) 「リタイアメントプラン」を立案することの重要性 男女世代別

- ・男女世代を問わず「リタイアメントプラン」の立案は「重要（重要／やや重要）」が高い（約90%）
- ・「リタイアメントプラン」の立案を「重要」と回答した割合は、男女ともに40歳代が他の世代と比べて低くなっている（約50%）



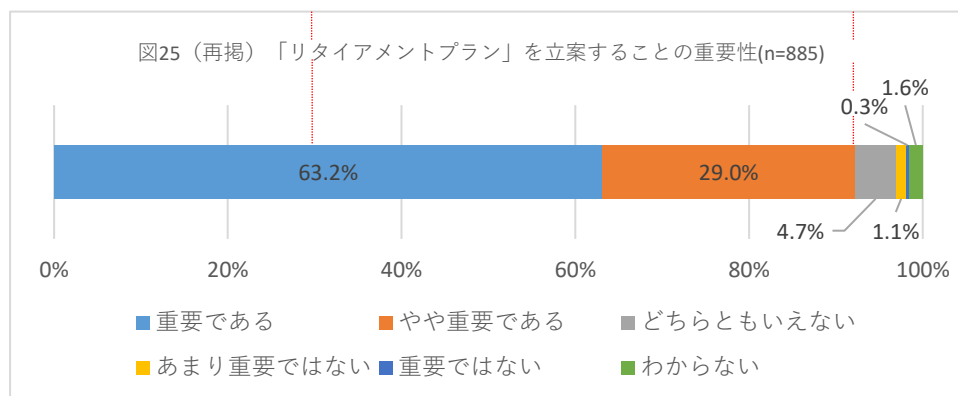
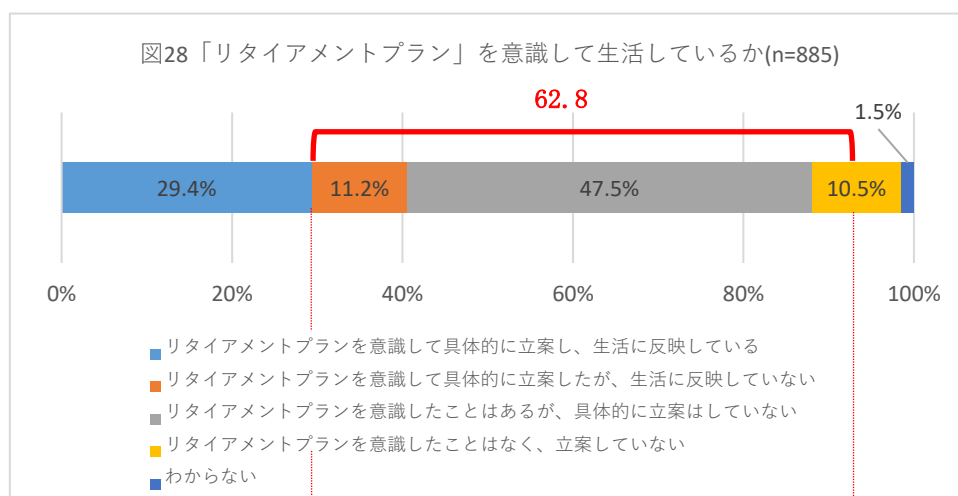
(9-2) 「リタイアメントプラン」を立案することの重要性 職業別

- ・職業を問わず「リタイアメントプラン」の立案は「重要（重要／やや重要）」が高い（約90%）



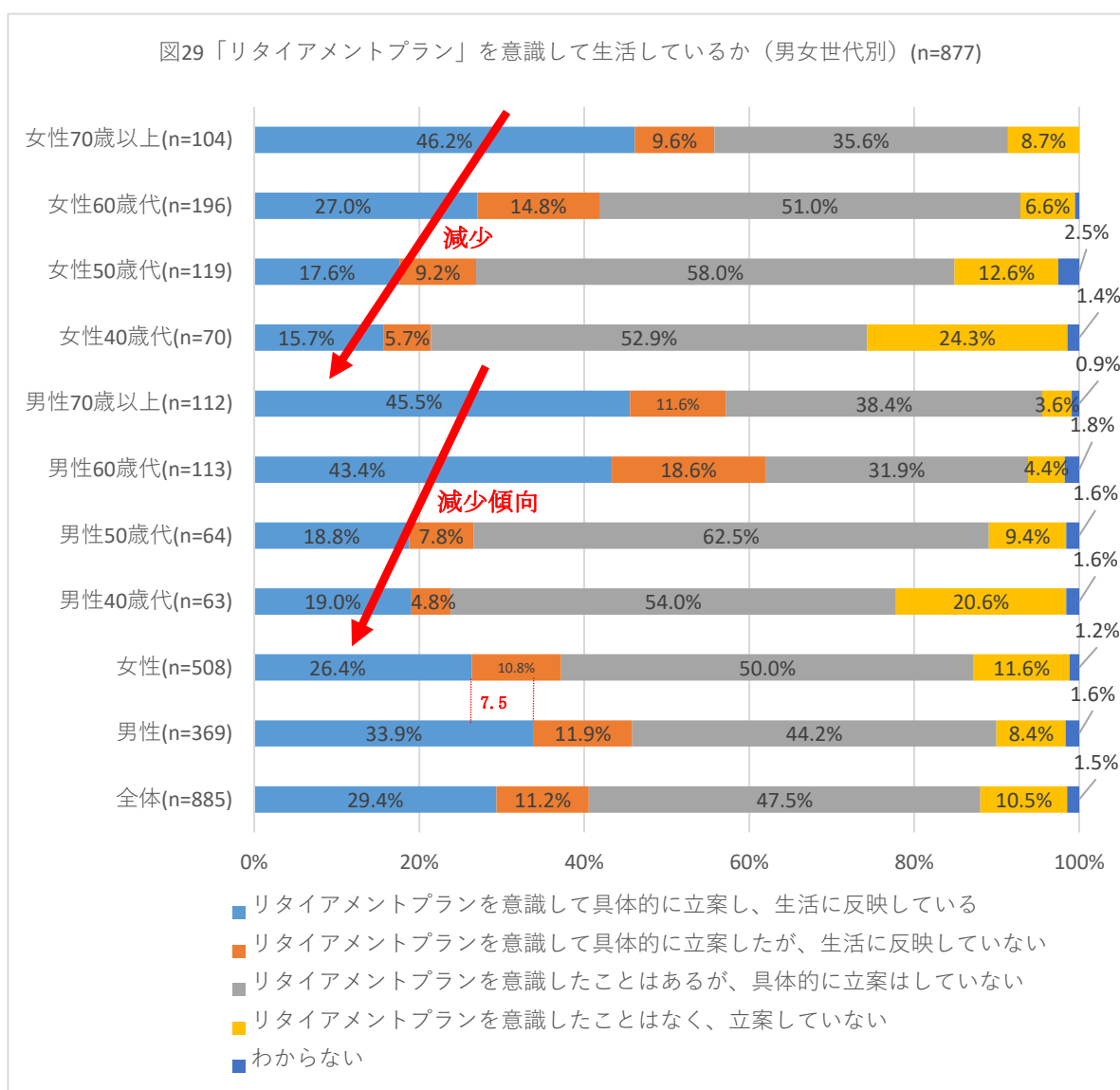
(10) 「リタイアメントプラン」を意識して生活しているか

- ・「リタイアメントプランを意識して具体的に立案し、生活に反映している」が29.4%
- ・「リタイアメントプランを意識したことはあるが、具体的に立案はしていない」が47.5%
- ・「リタイアメントプラン」の立案を「重要（重要／やや重要）」だと思う割合（92.2%）は高い一方で、「リタイアメントプランを意識して具体的に立案し、生活に反映している」割合（29.4%）は、大幅に低くなっている（62.8ポイント差）



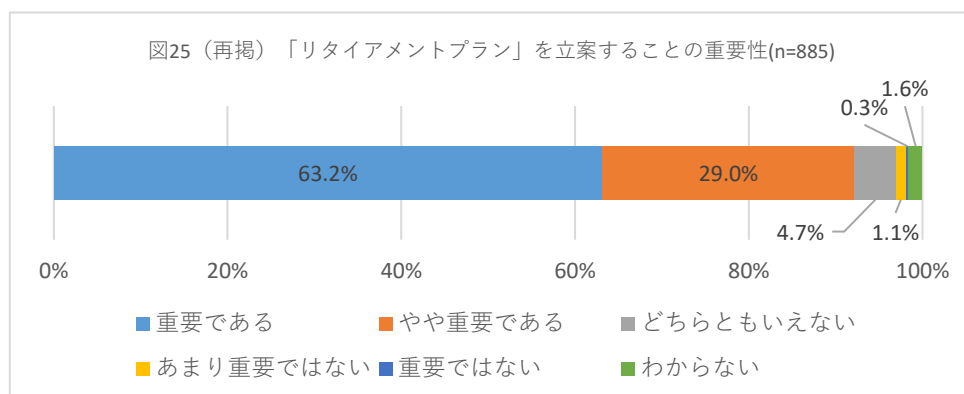
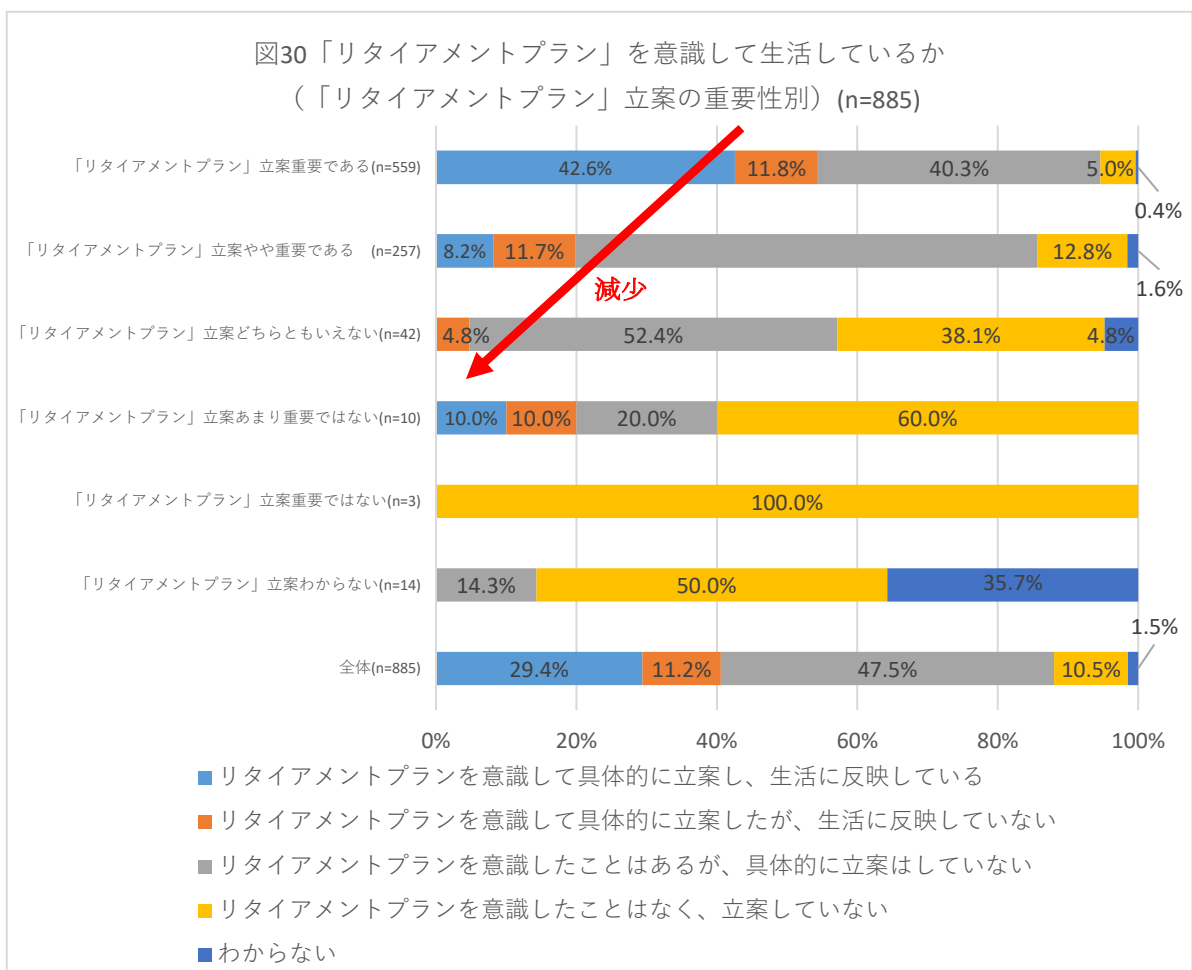
(10-1) 「リタイアメントプラン」を意識して生活しているか 男女世代別

- ・女性は世代が下がるにつれて「リタイアメントプラン」を立案し、生活に反映している割合が少なくなっている(女性：70歳以上46.2%、60歳代27.0%、50歳代17.6%、40歳代15.7%)
- ・男性は世代が下がるにつれて「リタイアメントプラン」を立案し、生活に反映している割合が少なくなる傾向がある(男性：70歳以上45.5%、60歳代43.4%、50歳代18.8%、40歳代19.0%)
- ・70歳以上では女性の方が男性より「リタイアメントプラン」を立案し、生活に反映している。40歳代、50歳代、60歳代では、男性の方が女性より「リタイアメントプラン」を立案し、生活に反映している
- ・男女で「リタイアメントプラン」を立案し、生活に反映している割合に差がある(女性：26.4%、男性：33.9%、7.5ポイント差)



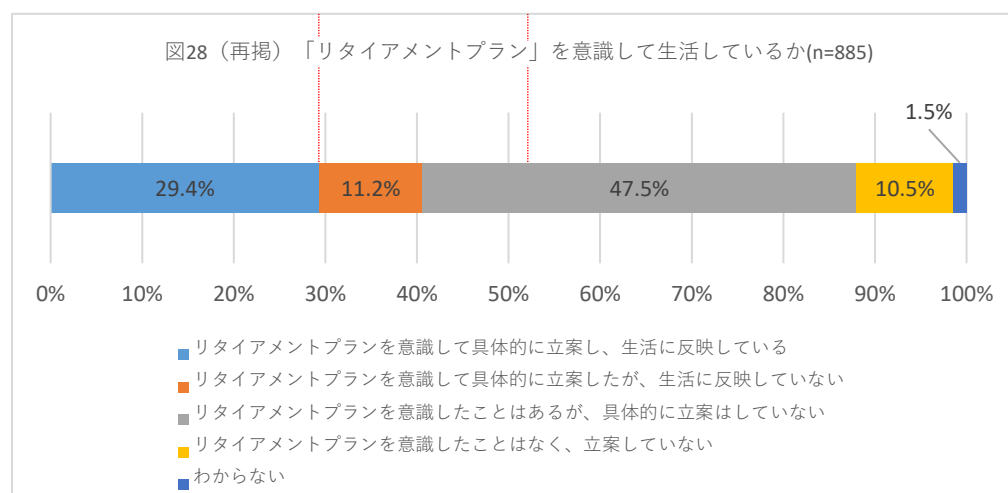
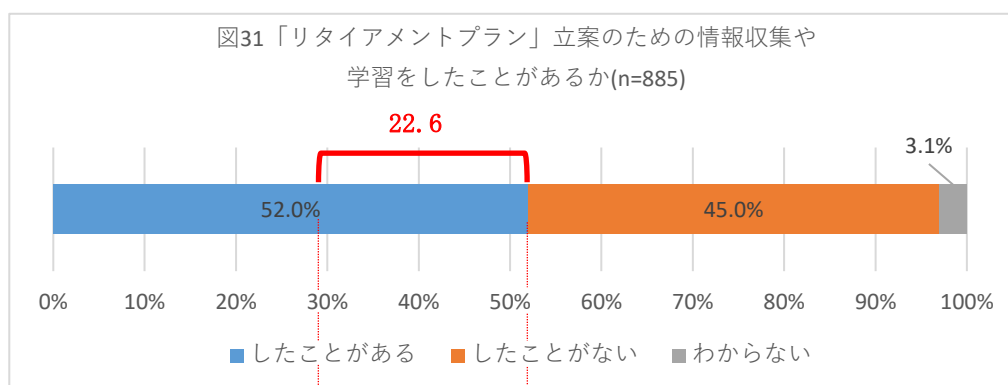
(10-2) 「リタイアメントプラン」を意識して生活しているか 「リタイアメントプラン」を立案することの重要性別

- ・「リタイアメントプラン」を立案することの重要性を「重要」と回答した人のうち42.6%が実際に「リタイアメントプラン」を立案し、生活に反映している。「やや重要」と回答した人のうち、8.2%が実際に「リタイアメントプラン」を立案し、生活に反映している。
- ・「リタイアメントプラン」を立案することの重要性を「重要」と回答した人は「やや重要」「どちらともいえない」と回答した人と比べて、「リタイアメントプラン」を立案し、生活に反映している割合が高い



(11) 「リタイアメントプラン」立案のための情報収集や学習をしたことがあるか

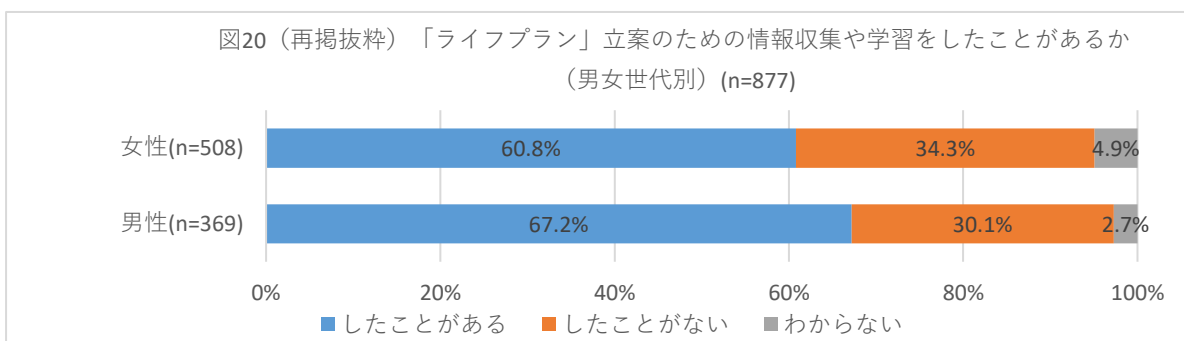
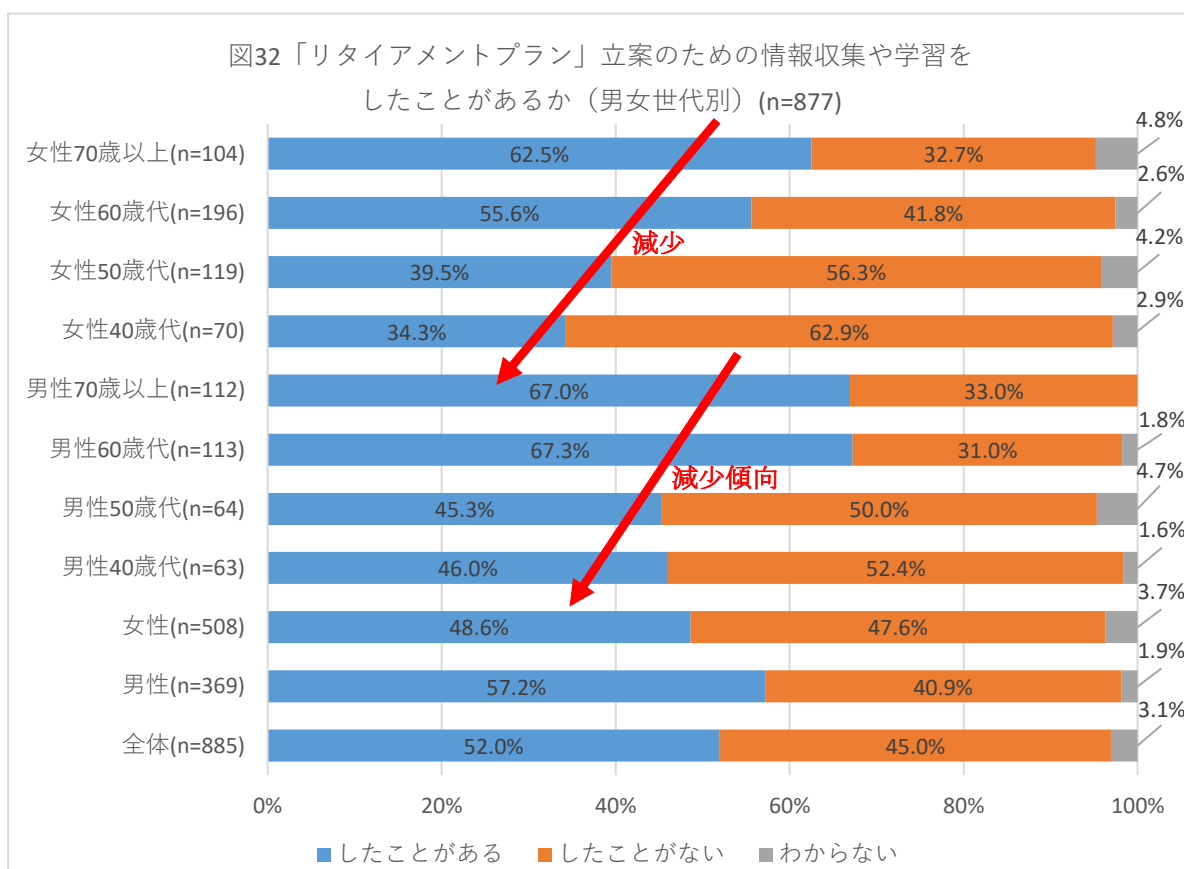
- ・「したことがある」の52.0%が、「したことがない」の45.0%を上回る
- ・「リタイアメントプラン」立案のための情報収集や学習を「したことがある」割合（52.0%）は高い一方で、「リタイアメントプラン」を「立案し、生活に反映している」割合（29.4%）は低くなっている（22.6ポイント差）



(11-1) 「リタイアメントプラン」立案のための情報収集や学習をしたことがあるか 男女世代別

- ・ 女性は世代が下がるにつれて情報収集や学習を「したことがある」割合が少なくなっている(女性：70歳以上62.5%、60歳代55.6%、50歳代39.5%、40歳代34.3%)
- ・ 男性は世代が下がるにつれて情報収集や学習を「したことがある」割合が少なくなる傾向がある(男性：70歳以上67.0%、60歳代67.3%、50歳代45.3%、40歳代46.0%)
- ・ 「リタイアメントプラン」の立案のための情報収集や学習は、男性の方が女性より「したことがある」割合が高い(男性：57.2%、女性：48.6%)

※参考：「ライフプラン」のための情報収集や学習も、男性の方が女性より「したことがある」割合が高い(男性：67.2%、女性：60.8%)



(12) 「リタイアメントプラン」立案の情報源

※(11)で「したことがある」と回答した460名へ調査

- ・「リタイアメントプラン」立案の情報源上位5項目は、「雑誌」(45.9%)、「書籍・参考書」(40.9%)、「新聞」(38.7%)、「テレビ」(30.2%)、「インターネットサイト」(28.0%)
- ・男性の上位5項目は、「書籍・参考書」(41.7%)、「雑誌」(40.8%)、「新聞」(37.4%)、「勤務先の研修やセミナー」(28.9%)、「インターネットサイト」(ブログなど)(28.4%)。「勤務先の研修やセミナー」が全体より高い
- ・女性の上位5項目は、「雑誌」(49.8%)、「書籍・参考書」(40.9%)、「新聞」(40.1%)、「テレビ」(32.8%)、「セミナーや講演会」(28.7%)。「セミナーや講演会」が全体より高い。

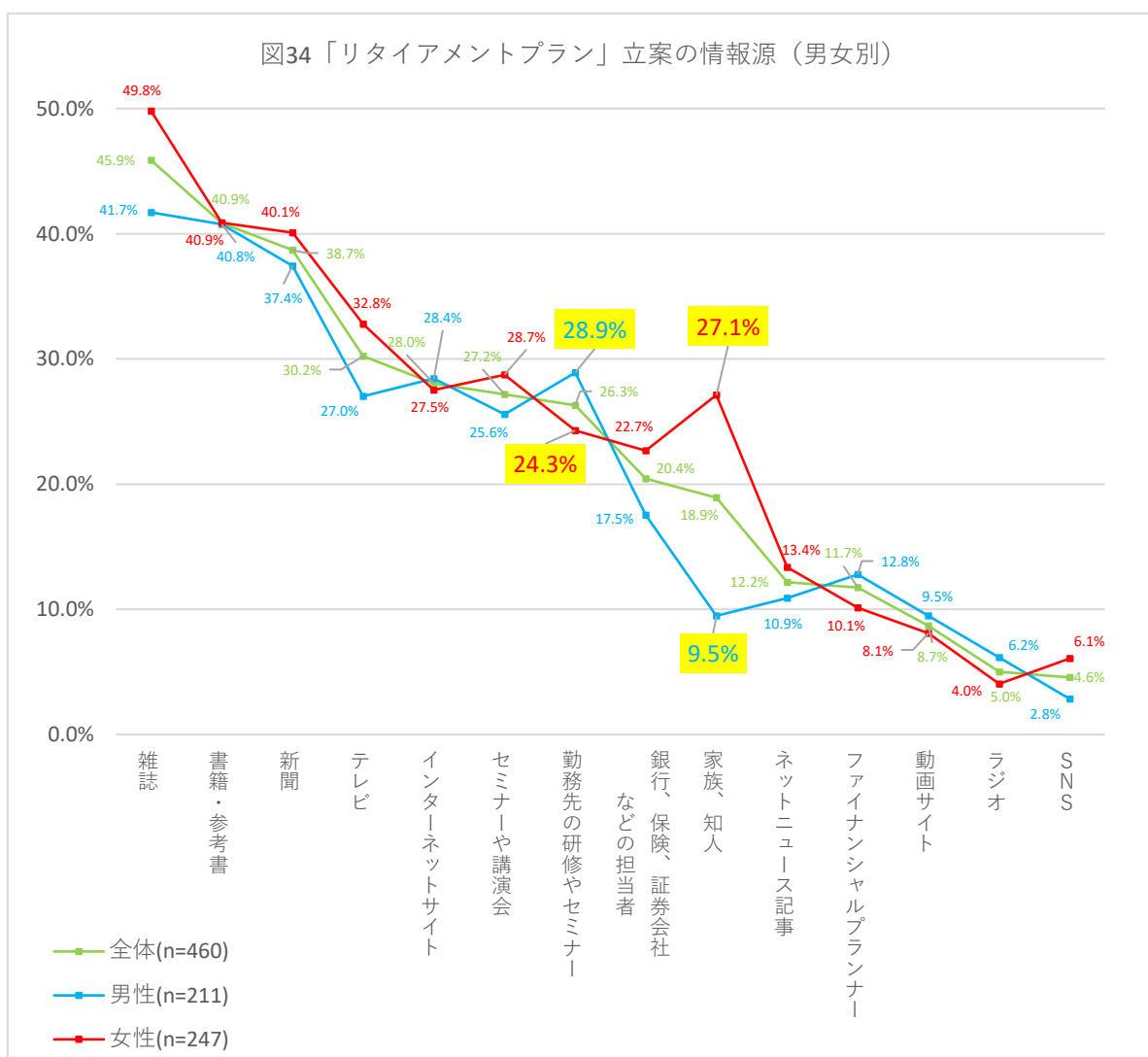
図32 「リタイアメントプラン」策定の情報収集源 上位5項目 (全体・男女別)

順位	全体(n=460)	男性(n=211)	女性(n=247)
1	雑誌 (45.9%)	書籍・参考書 (41.7%)	雑誌 (49.8%)
2	書籍・参考書 (40.9%)	雑誌 (40.8%)	書籍・参考書 (40.9%)
3	新聞 (38.7%)	新聞 (37.4%)	新聞 (40.1%)
4	テレビ (30.2%)	勤務先の研修やセミナー (28.9%)	テレビ (32.8%)
5	インターネットサイト (28.0%)	インターネットサイト (28.4%)	セミナーや講演会 (28.7%)

(複数回答)

(12-1) 「リタイアメントプラン」立案の情報源 男女別

- ・「リタイアメントプラン」立案の情報源として、男性が女性を大きく上回ったのは「勤務先の研修やセミナー」（全体26.3%、男性28.9%、女性24.3%、男女差4.6ポイント）
- ・女性が男性を大きく上回ったのは「家族・知人」（全体18.9%、男性9.5%、女性27.1%、男女差17.6ポイント）

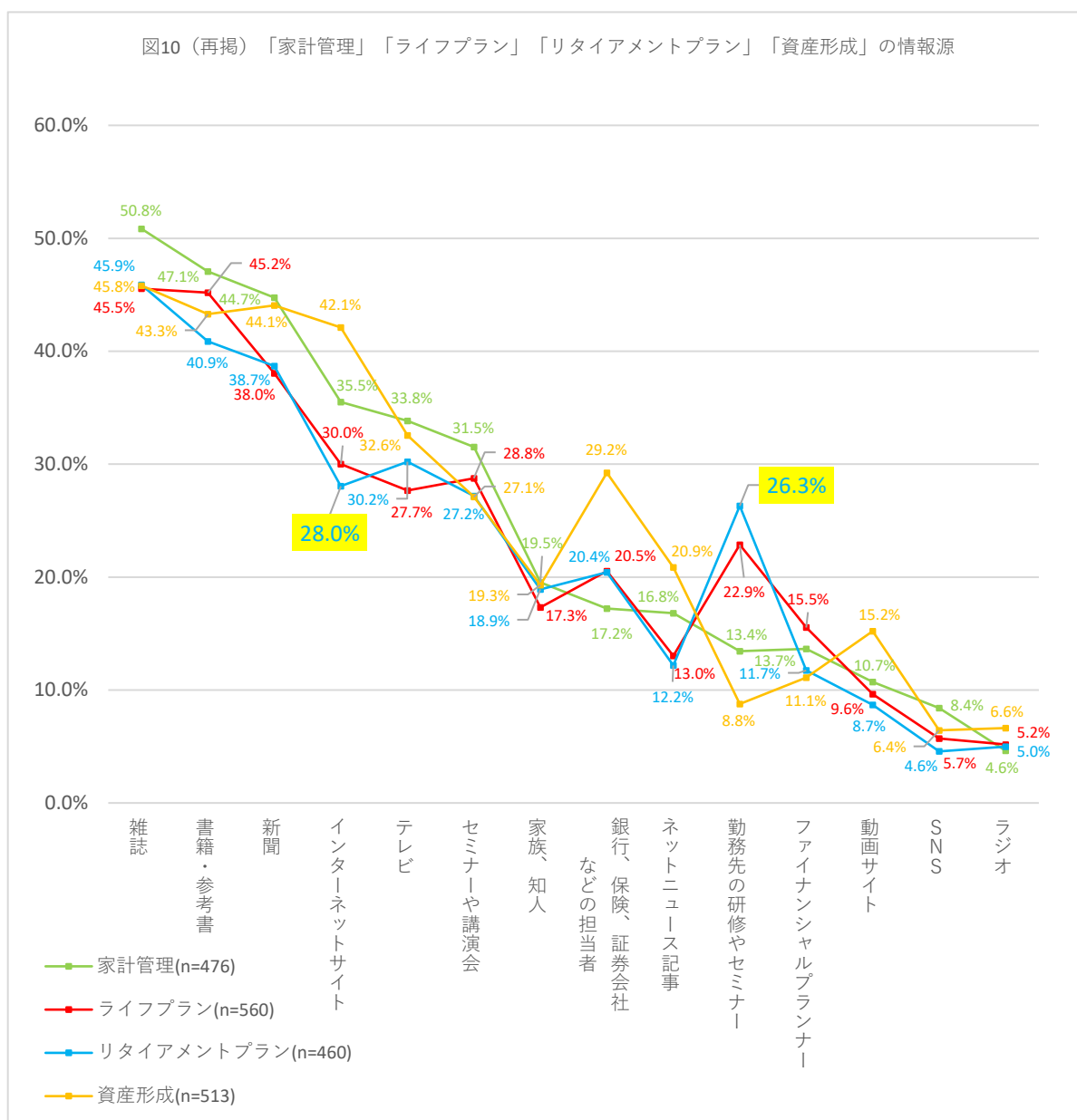


(複数回答)

(12-2) 「リタイアメントプラン」立案の情報源 「家計管理」「ライフプラン」「資産形成」の情報源との比較

- ・「家計管理」「ライフプラン」「資産形成」と比べて「リタイアメントプラン」立案の情報源は「勤務先の研修やセミナー」が多い

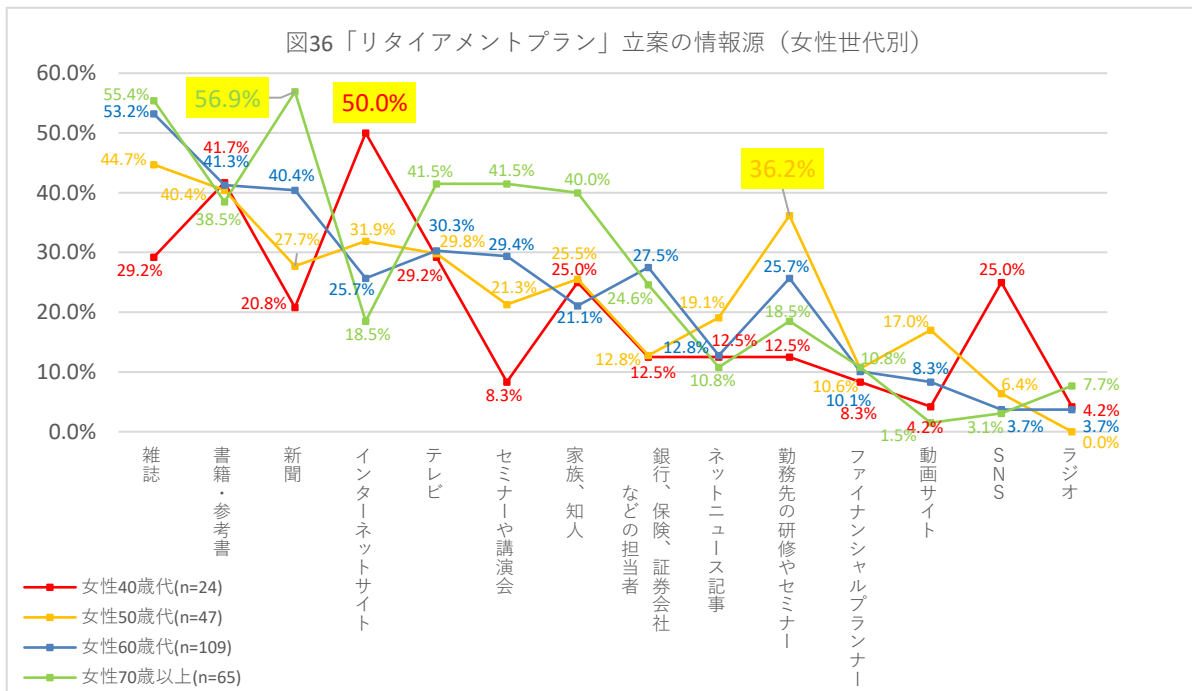
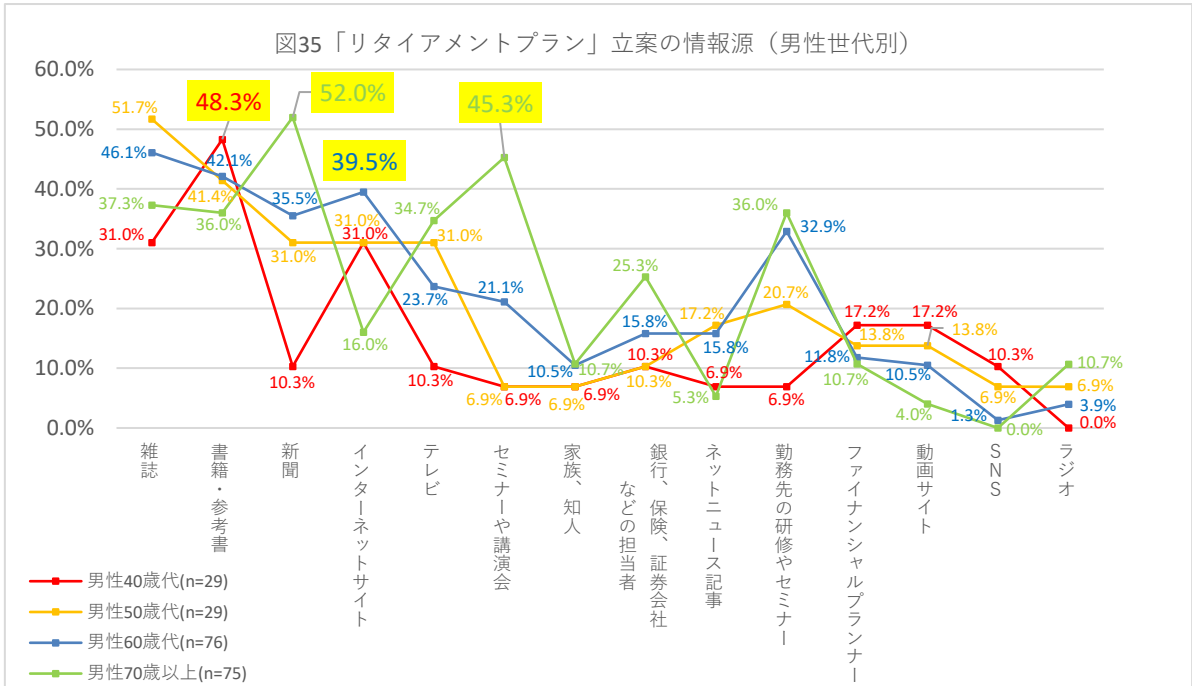
※「家計管理」は(4)、「ライフプラン」は(8)、「資産形成」は(19)に詳細を掲載



(複数回答)

(12-3) 「リタイアメントプラン」立案の情報源 男女世代別

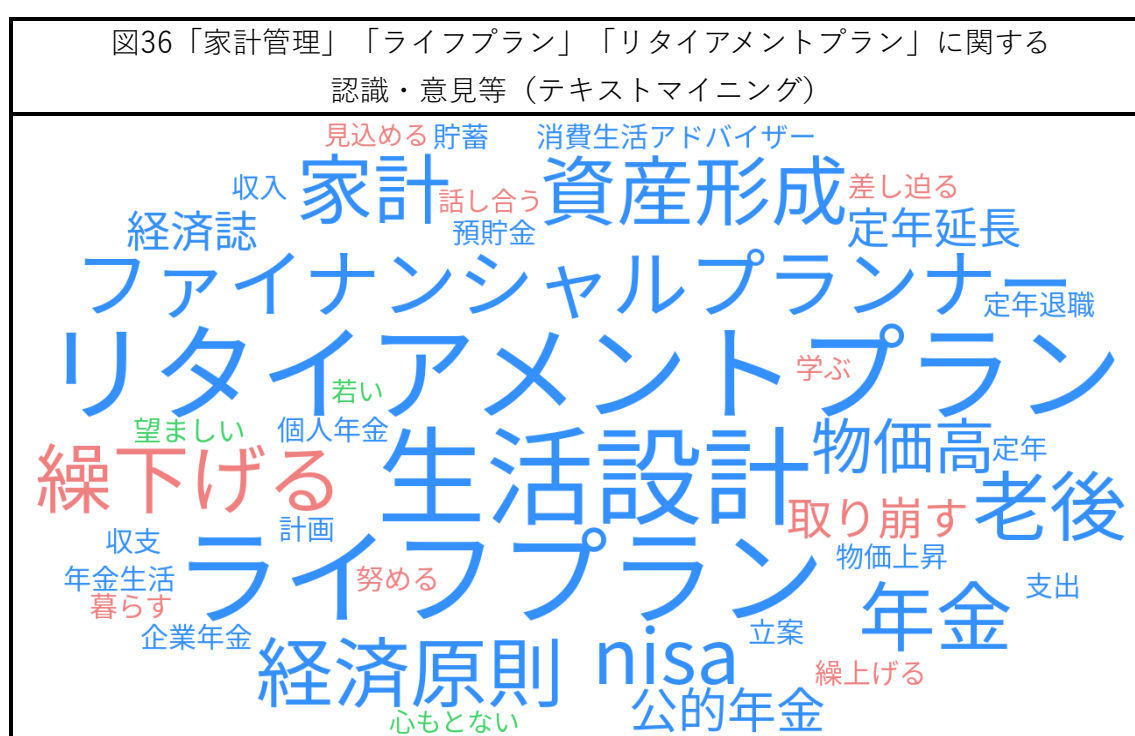
- ・「リタイアメントプラン」立案の情報源として、男女とも世代が下がるにつれて「書籍参考書」「インターネットサイト」の割合が高くなっている
- ・男女とも世代が下がるにつれて「新聞」「セミナーや講演会」の割合が低くなる傾向がある



(複数回答)

(13) 「家計管理」「ライフプラン」「リタイアメントプラン」に関する
認識・意見等

- ・「漠然と必要性は感じているが、具体的に何を何処で学べるのかが不明で、時間だけが過ぎて」「先行き不透明な時代だからこそ、能動的に自身の人生を考えた生活設計が必要になっていると感じる」といった認識や意見があった
- ・年金繰下げ・繰上げといった社会保障制度の利活用に関する話題や、物価高・定年延長といった昨今の社会情勢に関する話題が認められた

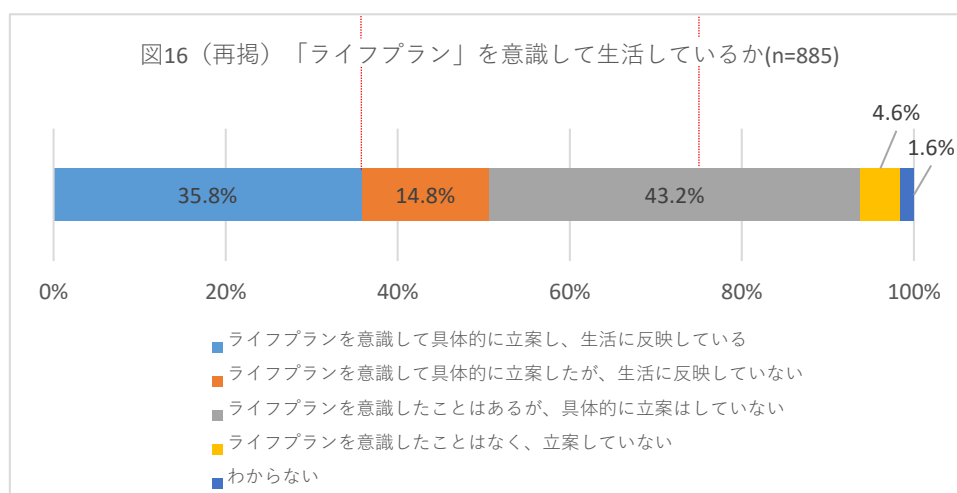
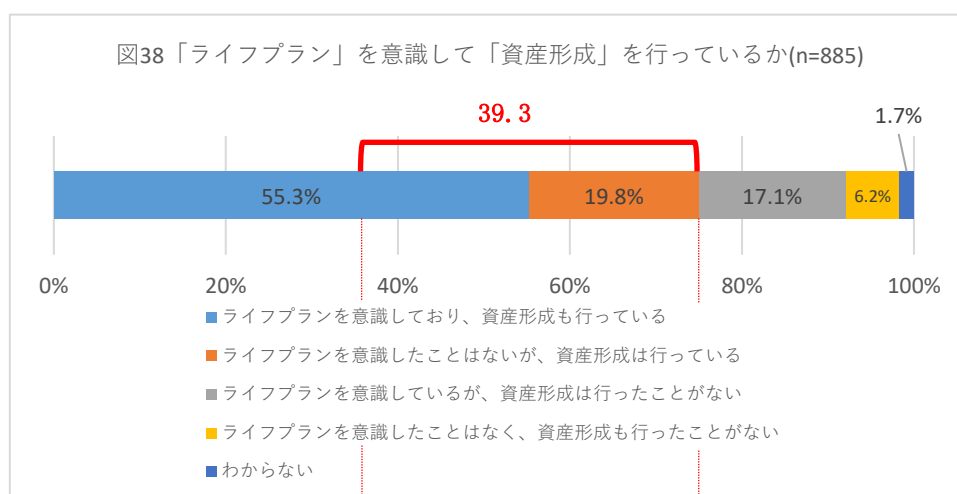


※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析(TF-IDF法) (<https://textmining.userlocal.jp/>)

4. 「資産形成」に対する意識

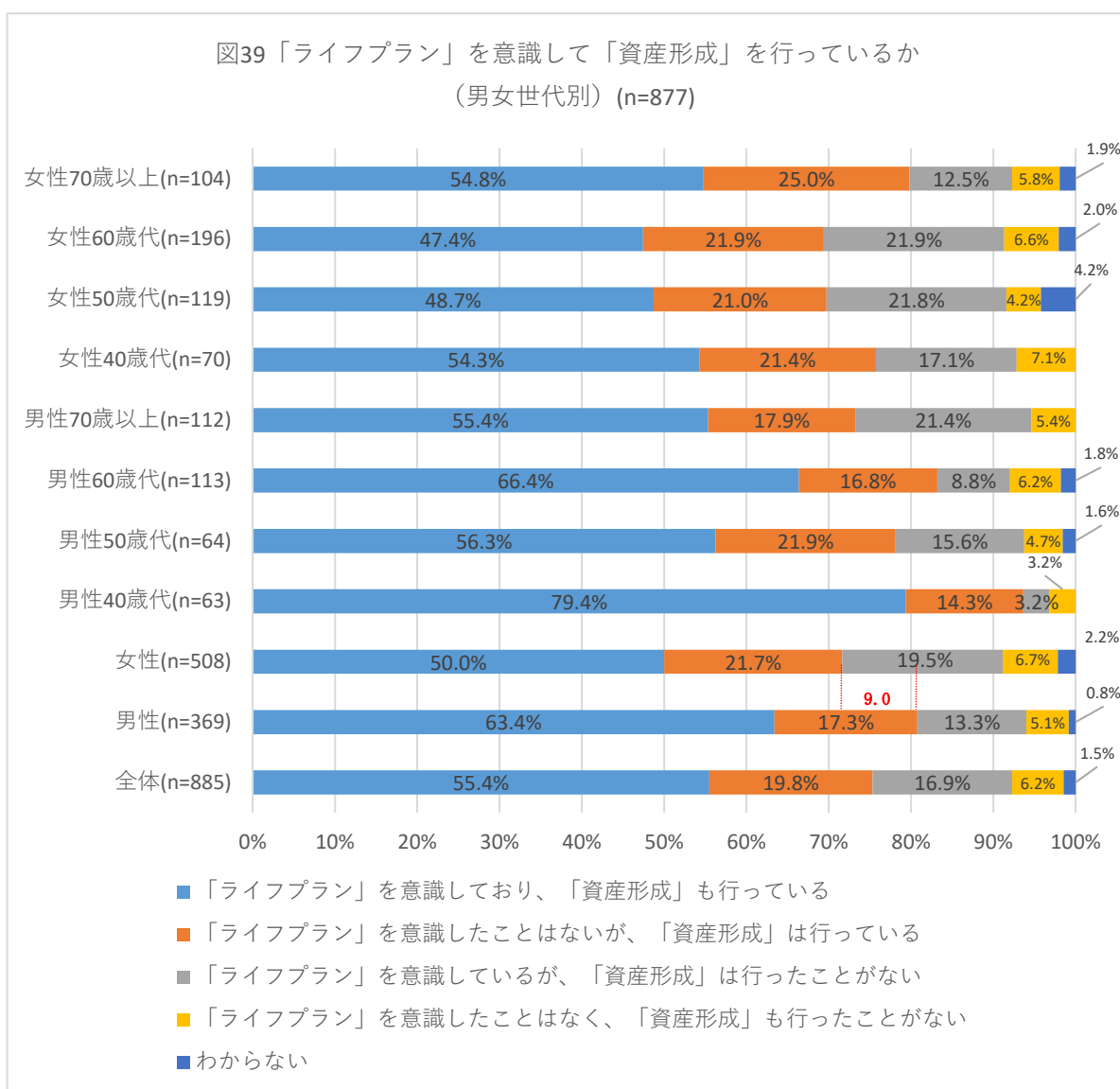
(14) 「ライフプラン」を意識して「資産形成」を行っているか

- ・「ライフプランを意識しており、資産形成も行っている」が55.3%
- ・「資産形成」を行っている割合は75.1%
- ・「資産形成」を行っている割合（75.1%）は高い一方で、「ライフプランを意識して具体的に立案し、生活に反映している」割合（35.8%）は低くなっている（39.3ポイント差）



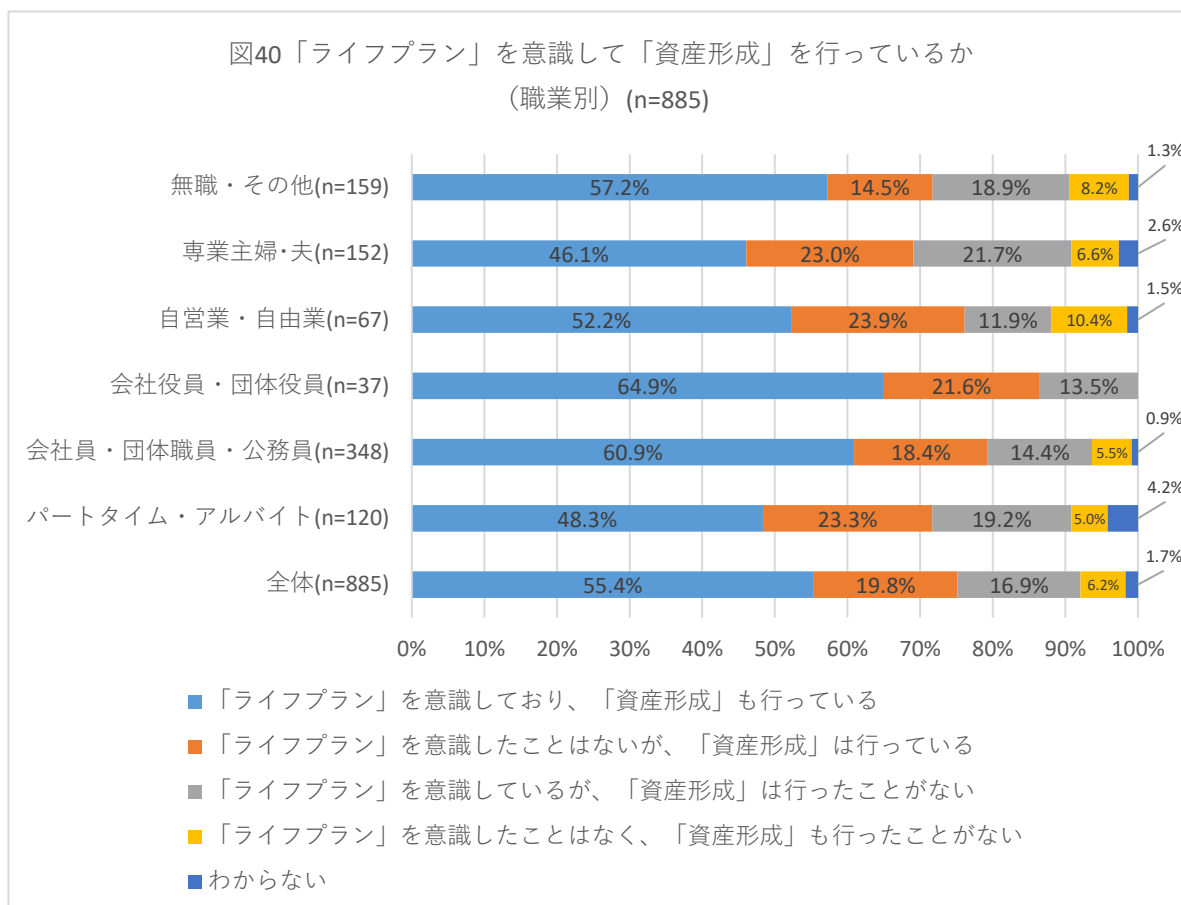
(14-1) 「ライフプラン」を意識して「資産形成」を行っているか 男女世代別

- ・男女世代ごとに、「資産形成」を行っている割合は約70～約95%と幅がある。
- ・男女世代ごとに、約5～約30%が「資産形成」を行っていない
- ・男性の方が女性より「資産形成」を行っている割合が高い傾向がある（9.0ポイント差）



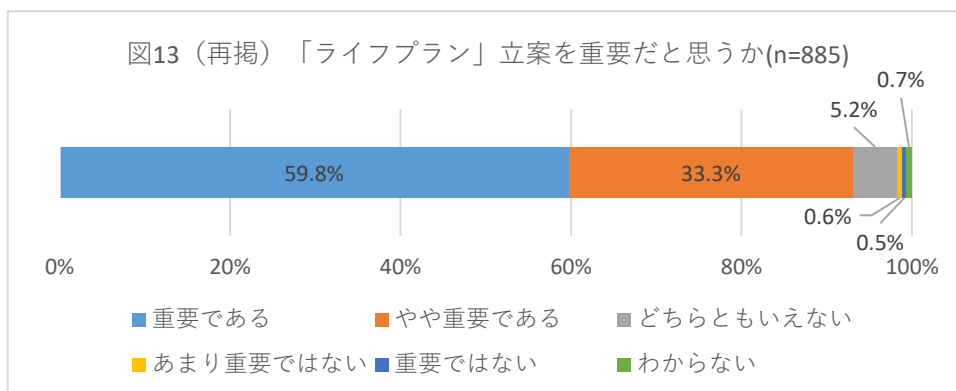
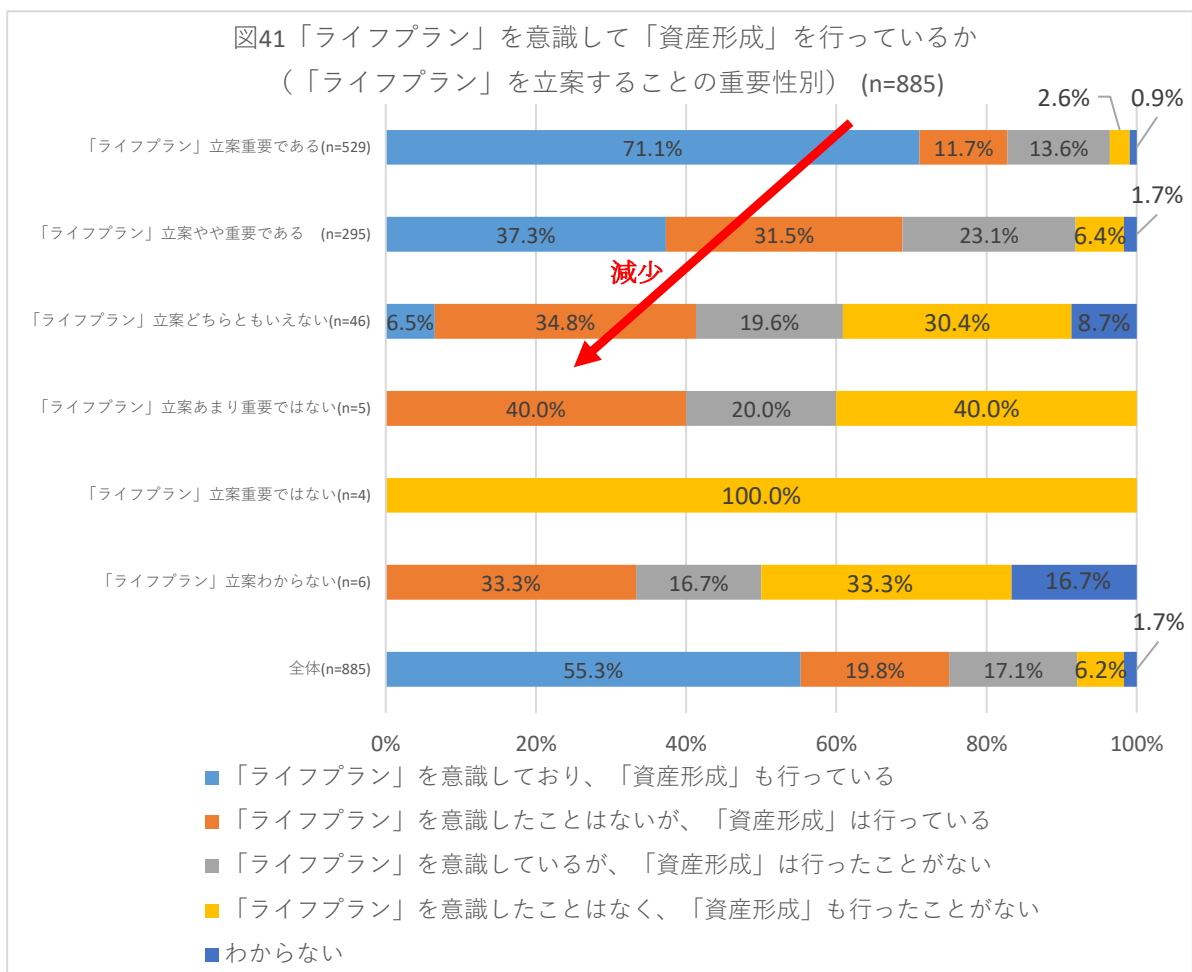
(14-2) 「ライフプラン」を意識して「資産形成」を行っているか 職業別

- ・職業ごとに、「資産形成」を行っている割合は約70～約85%と幅がある



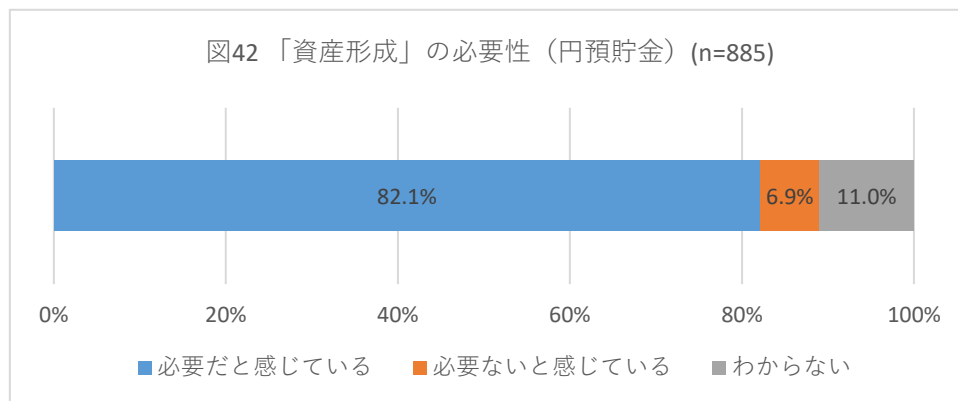
(14-3) 「ライフプラン」を意識して「資産形成」を行っているか
「ライフプラン」を立案することの重要性別

- ・「ライフプラン」を立案することの重要性を、「重要」と回答した人のうち、82.8%が実際に「資産形成」を行っている。「やや重要」と回答した人のうち、68.8%が実際に「資産形成」を行っている
- ・「ライフプラン」を立案することの重要性を、「重要」と回答した人は、「やや重要」「どちらともいえない」と回答した人と比べて、「資産形成」を行っている割合が高い

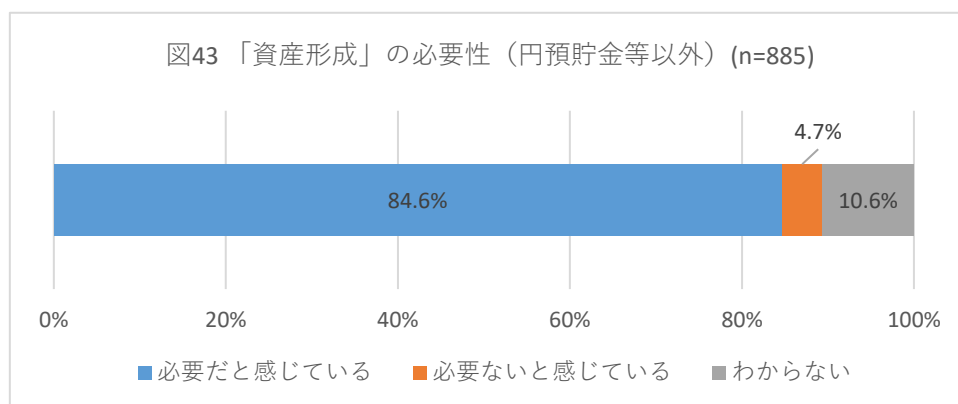


(15) 「資産形成」の必要性（円預貯金・円預貯金等以外）

- ・円預貯金による「資産形成」について、「必要だと感じている」が82.1%



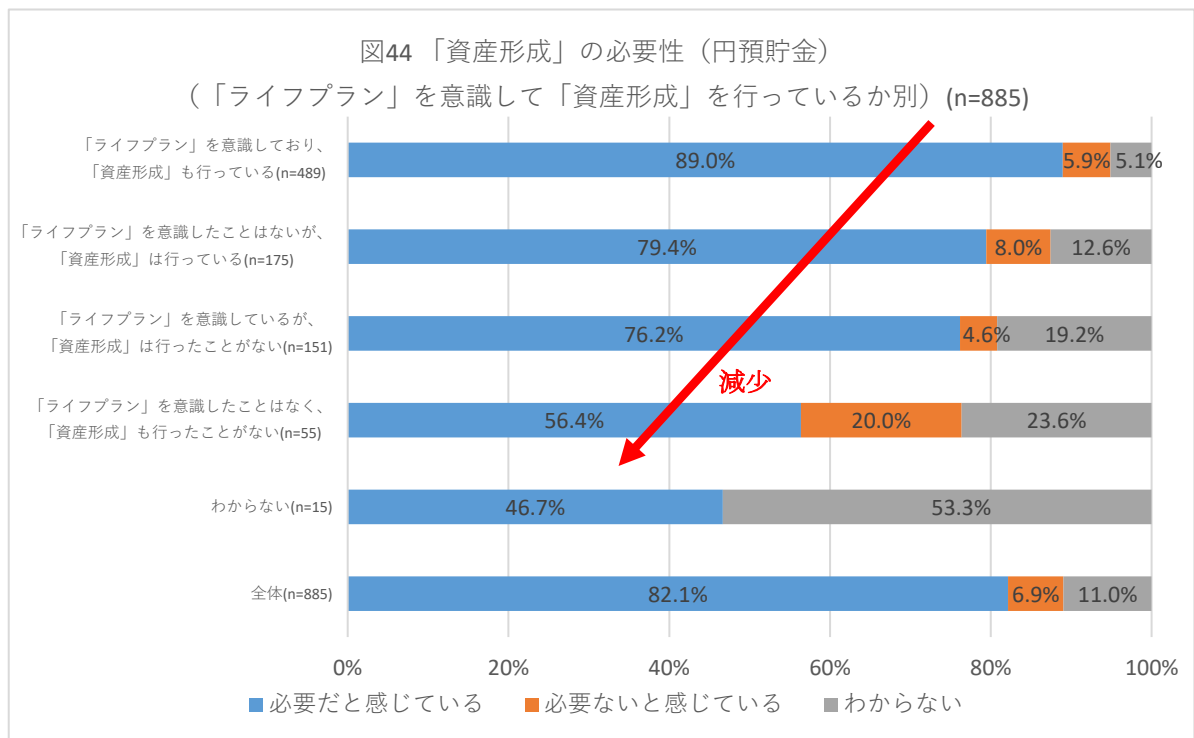
- ・労働収入・公的年金収入・円預貯金以外による「資産形成」について、「必要だと感じている」が84.6%



(15-1) 「資産形成」の必要性（円預貯金）

「ライフプラン」を意識して「資産形成」を行っているか別

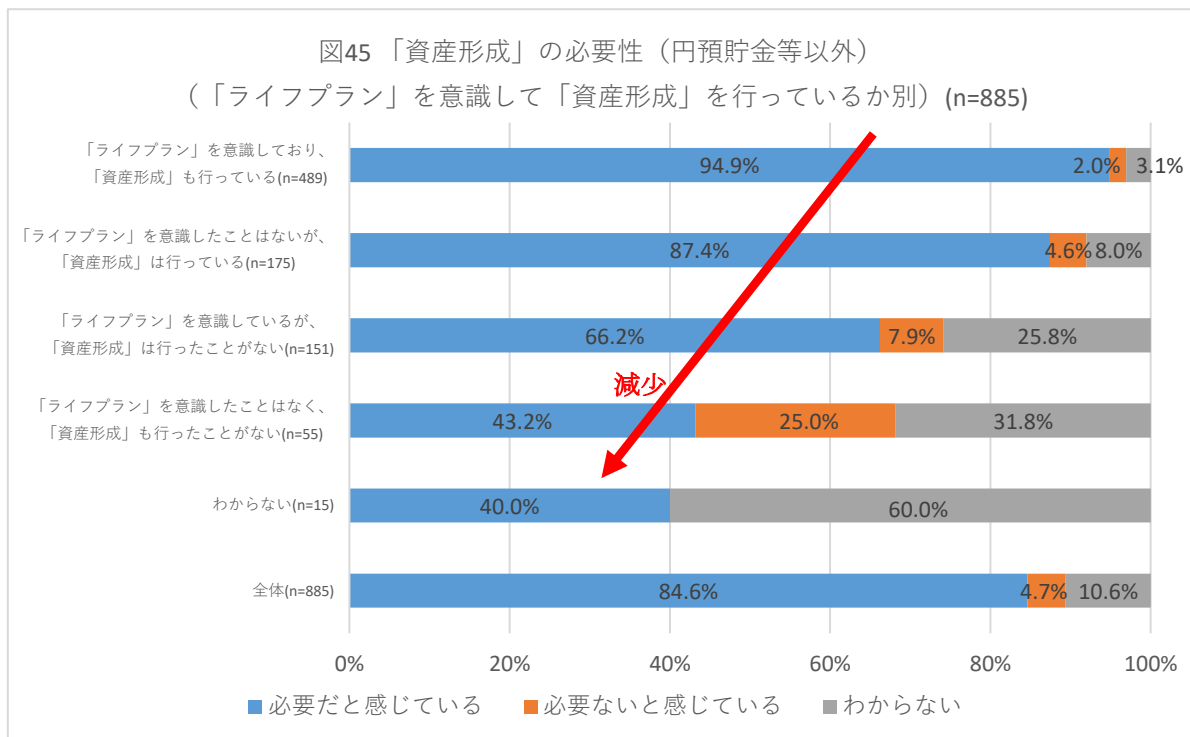
- ・「ライフプラン」を意識して「資産形成」を行っているかについて、「ライフプランを意識しており、資産形成も行っている」と回答した人のうち、89.0%が円預貯金による「資産形成」を「必要だと感じている」
- ・「ライフプランを意識したことはなく、資産形成も行ったことがない」と回答した人のうち、56.4%が円預貯金による「資産形成」を「必要だと感じている」
- ・「ライフプランを意識しており、資産形成も行っている」と回答した人は、「ライフプランを意識したことがなく、資産形成も行ったことがない」と回答した人と比べて、円預貯金による「資産形成」を「必要だと感じている」割合が高い



(15-2) 円預貯金等以外による「資産形成」の必要性

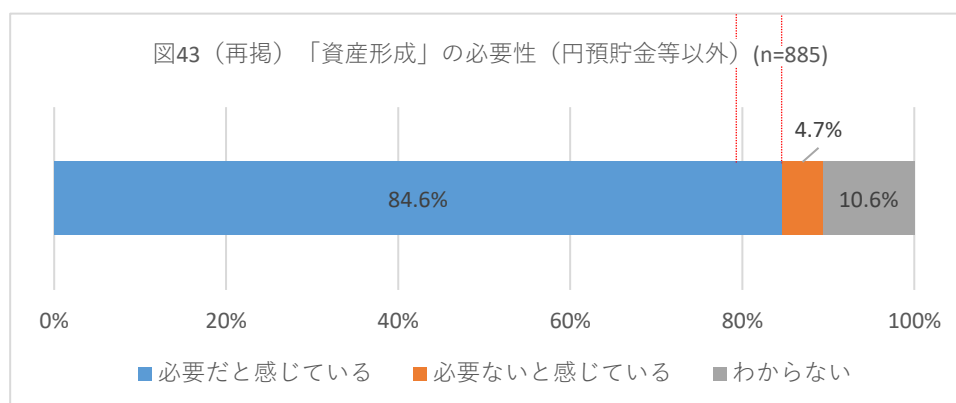
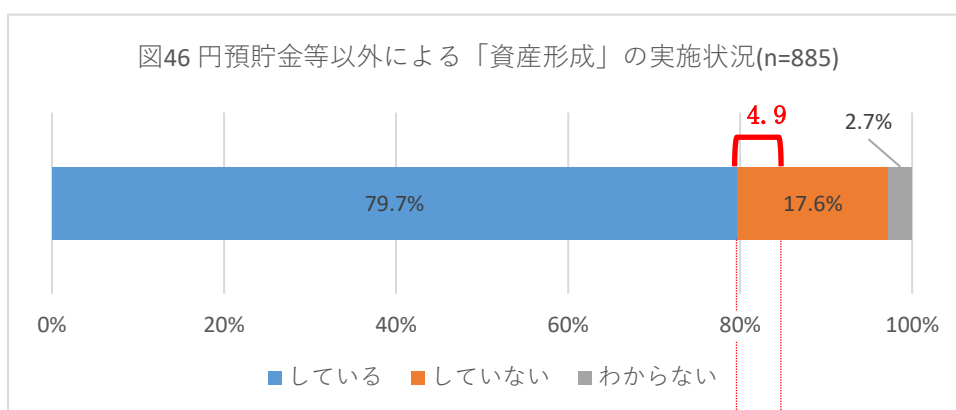
「ライフプラン」を意識して「資産形成」を行っているか別

- ・「ライフプラン」を意識して「資産形成」を行っているかについて、「ライフプランを意識しており、資産形成も行っている」と回答した人のうち、94.9%が労働収入・公的年金収入・円預貯金以外による「資産形成」を「必要だと感じている」
- ・「ライフプラン」を意識して「資産形成」を行っているかについて、「ライフプランを意識したことはなく、資産形成も行ったことがない」と回答した人のうち、43.2%が労働収入・公的年金収入・円預貯金による「資産形成」を「必要だと感じている」
- ・「ライフプラン」を意識して「資産形成」を行っているかについて、「ライフプランを意識しており、資産形成も行っている」と回答した人は、「ライフプランを意識したことがなく、資産形成も行ったことがない」と回答した人と比べて、労働収入・公的年金収入・円預貯金以外による「資産形成」を「必要だと感じている」割合が高い



(16) 円預貯金等以外による「資産形成」の実施状況

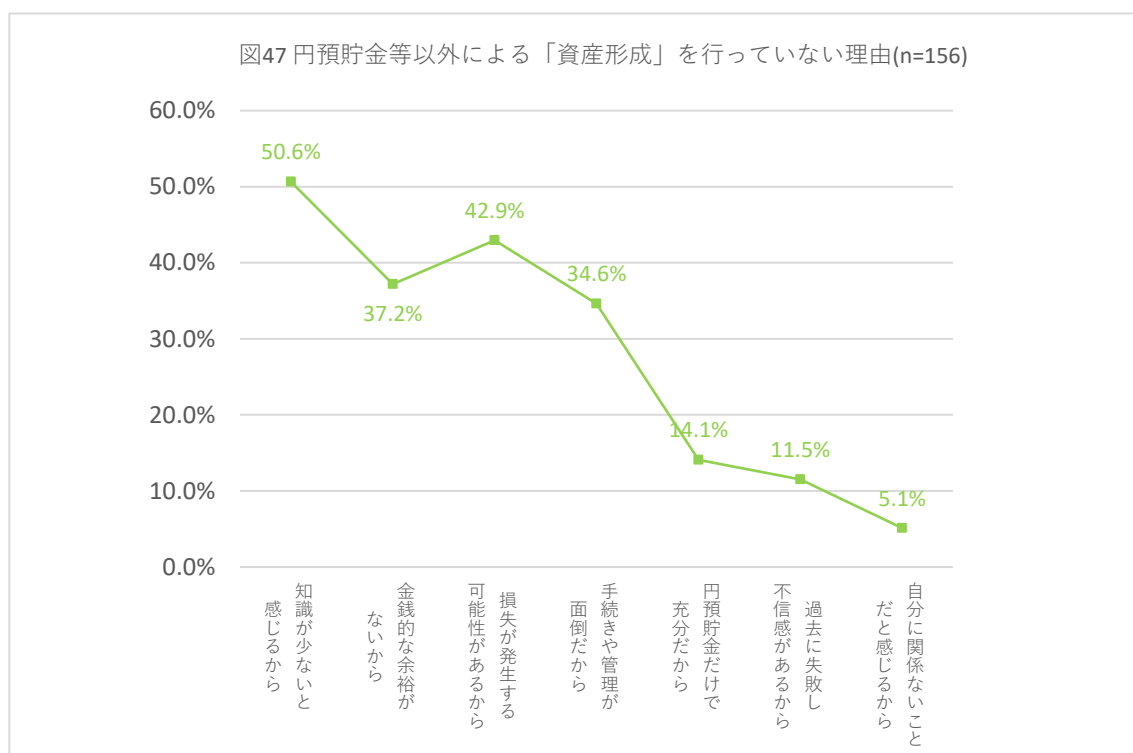
- ・労働収入・公的年金収入・円預貯金以外による「資産形成」について、実施「している」割合は79.7%
- ・労働収入・公的年金収入・円預貯金以外による「資産形成」について、「必要だと感じている」割合（84.6%）と比べて、実施「している」割合（79.7%）は少ない（4.9ポイント差）



(17) 円預貯金等以外による「資産形成」を行っていない理由

※(16)で「していない」と回答した156名へ調査

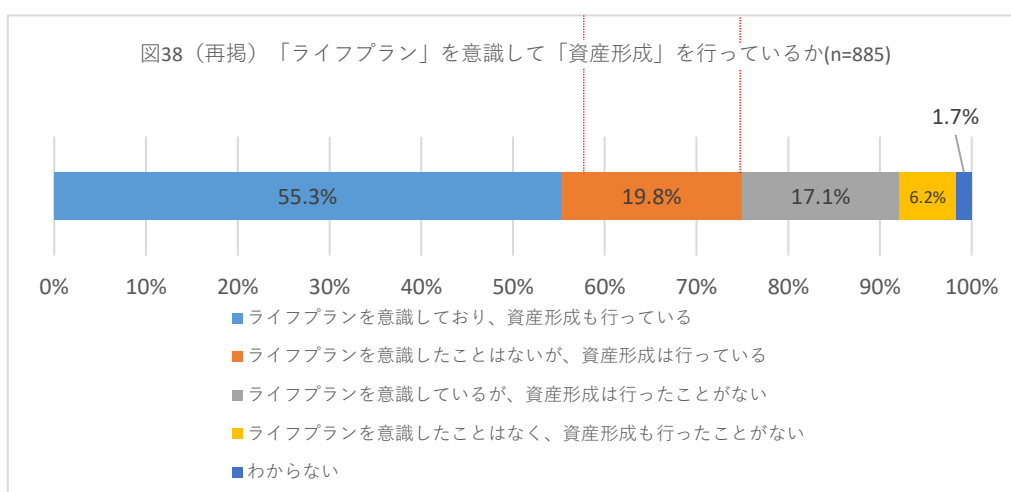
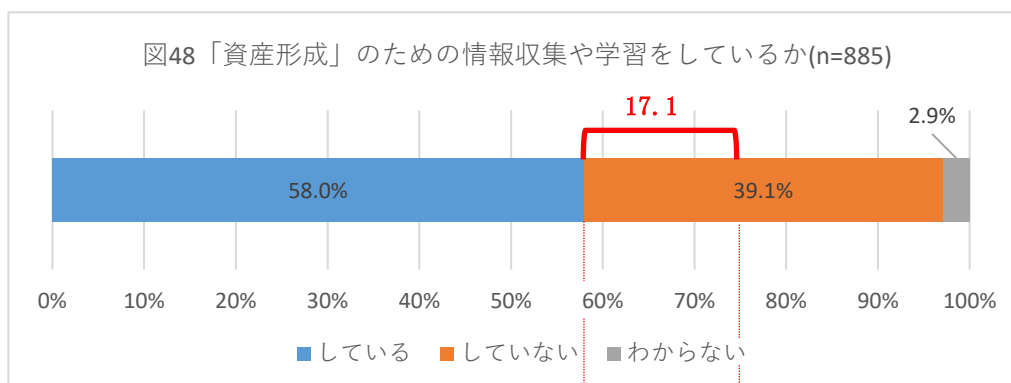
- ・労働収入・公的年金収入・円預貯金以外による「資産形成」を行っていない理由の上位3項目は、「知識が少ないと感じるから」(50.6%)、「損失が発生する可能性があるから」(42.9%)、「金銭的な余裕がないから」(37.2%)



(複数回答)

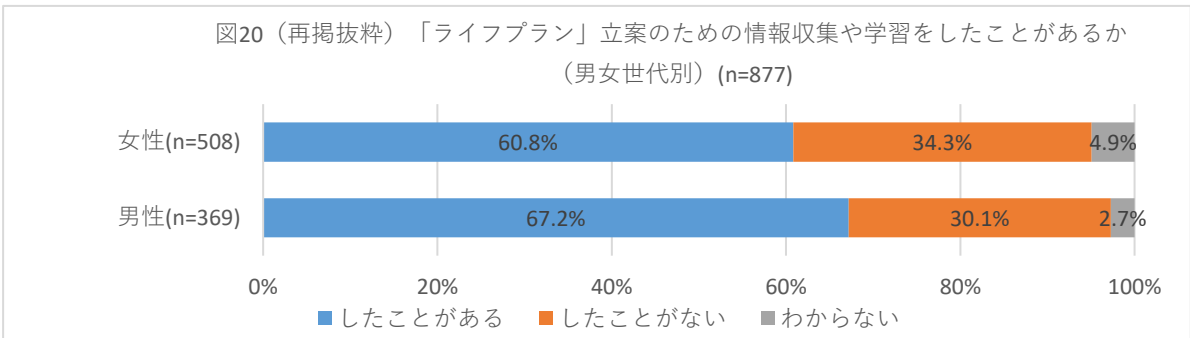
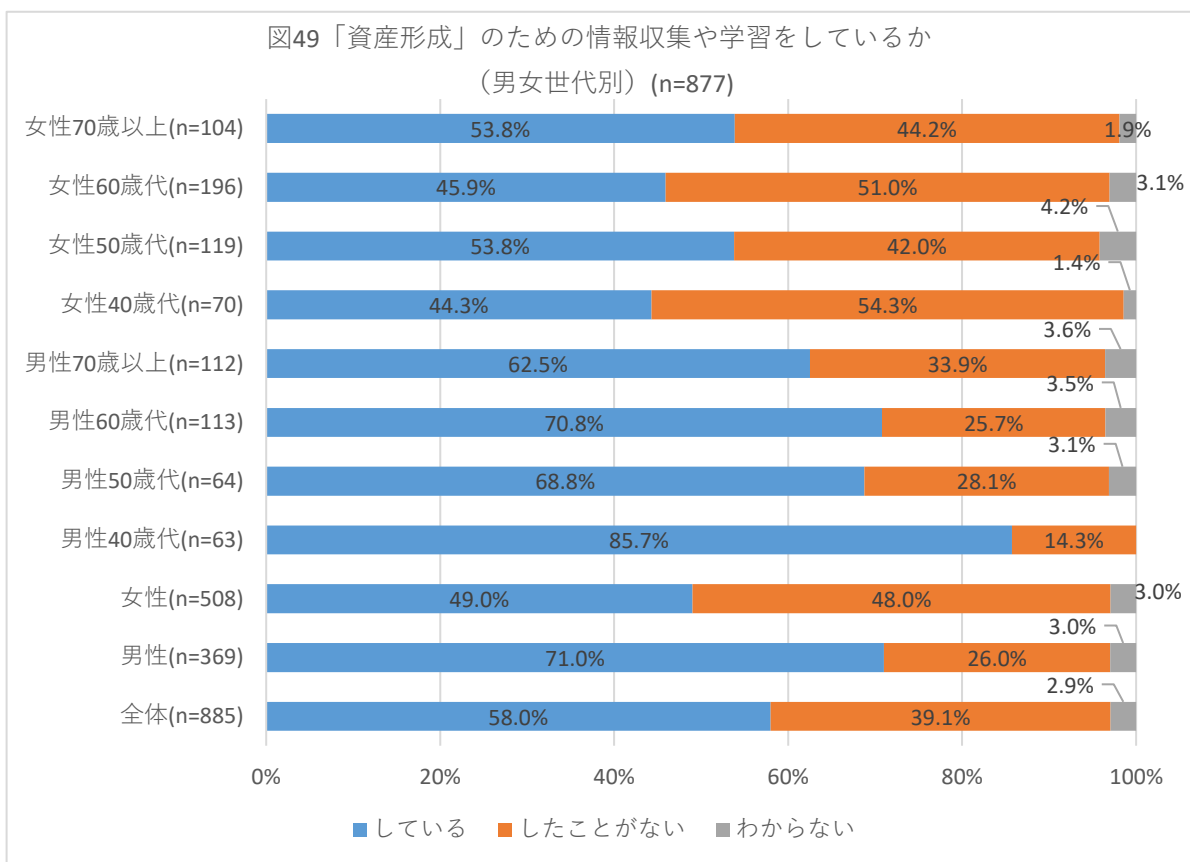
(18) 「資産形成」のための情報収集や学習しているか

- ・「している」の58.0%が、「していない」の39.1%を上回る
- ・「資産形成」を「している」割合（75.1%）は高い一方で、「資産形成」のための情報収集や学習を「している」割合（58.0%）は低くなっている（17.1ポイント差）



(18-1) 「資産形成」のための情報収集や学習をしているか 男女世代別

- ・ 女性は情報収集や学習を「している」割合の世代差が少ない
(女性：70歳以上53.8%、60歳代45.9%、50歳代53.8%、40歳代44.3%)
- ・ 男性は世代が下がるにつれて情報収集や学習を「している」割合が多くなる傾向がある(男性：70歳以上62.5%、60歳代70.8%、50歳代68.8%、40歳代85.7%)
- ・ 「資産形成」のための情報収集や学習は、男性の方が女性より「している」割合が高い(男性：71.0%、女性：49.0%)



(19) 「資産形成」の情報源 ※(18)で「している」と回答した513名へ調査

- ・「資産形成」の情報源上位5項目は、「雑誌」(45.8%)、「新聞」(44.1%)、「書籍・参考書」(43.3%)、「インターネットサイト」(42.1%)、「テレビ」(32.6%)
- ・男性の上位5項目は、「インターネットサイト」(46.6%)、「新聞」(45.8%)、「書籍・参考書」(45.8%)、「雑誌」(45.0%)、「テレビ」(31.7%)。「インターネットサイト」が全体より高い
- ・女性の上位5項目は、「雑誌」(46.6%)、「新聞」(42.2%)、「書籍・参考書」、「インターネットサイト」(36.9%)、「銀行、保険、証券会社などの担当者」(36.5%)。「銀行、保険、証券会社などの担当者」が全体より高い

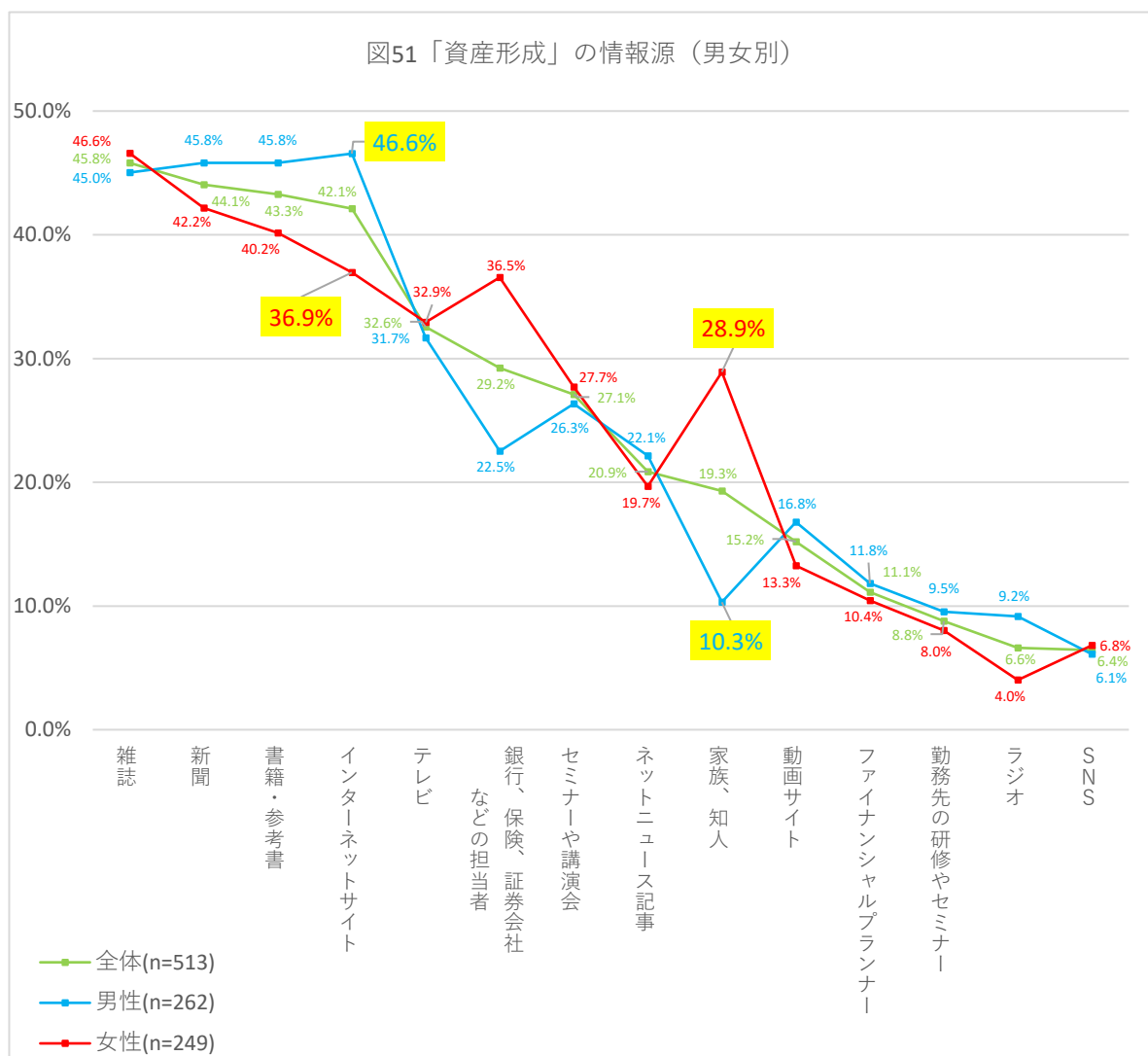
図50 「資産形成」の情報収集源 上位5項目 (全体・男女別)

順位	全体(n=460)	男性(n=211)	女性(n=247)
1	雑誌 (45.8%)	インターネットサイト (46.6%)	雑誌 (46.6%)
2	新聞 (44.1%)	新聞 (45.8%)	新聞 (42.2%)
3	書籍・参考書 (43.3%)	書籍・参考書 (45.8%)	書籍・参考書 (40.2%)
4	インターネットサイト (42.1%)	雑誌 (45.0%)	インターネットサイト (36.9%)
5	テレビ (32.6%)	テレビ (31.7%)	銀行、保険、証券会社 などの担当者 (31.7%)

(複数回答)

(19-1) 「資産形成」の情報源 男女別

- ・「資産形成」の情報源として、男性が女性を大きく上回ったのは「インターネットサイト」(全体42.1%、男性46.6%、女性36.9%、男女差8.7ポイント)
- ・女性が男性を大きく上回ったのは「家族・知人」(全体19.3%、男性10.3%、女性28.9%、男女差18.6ポイント)

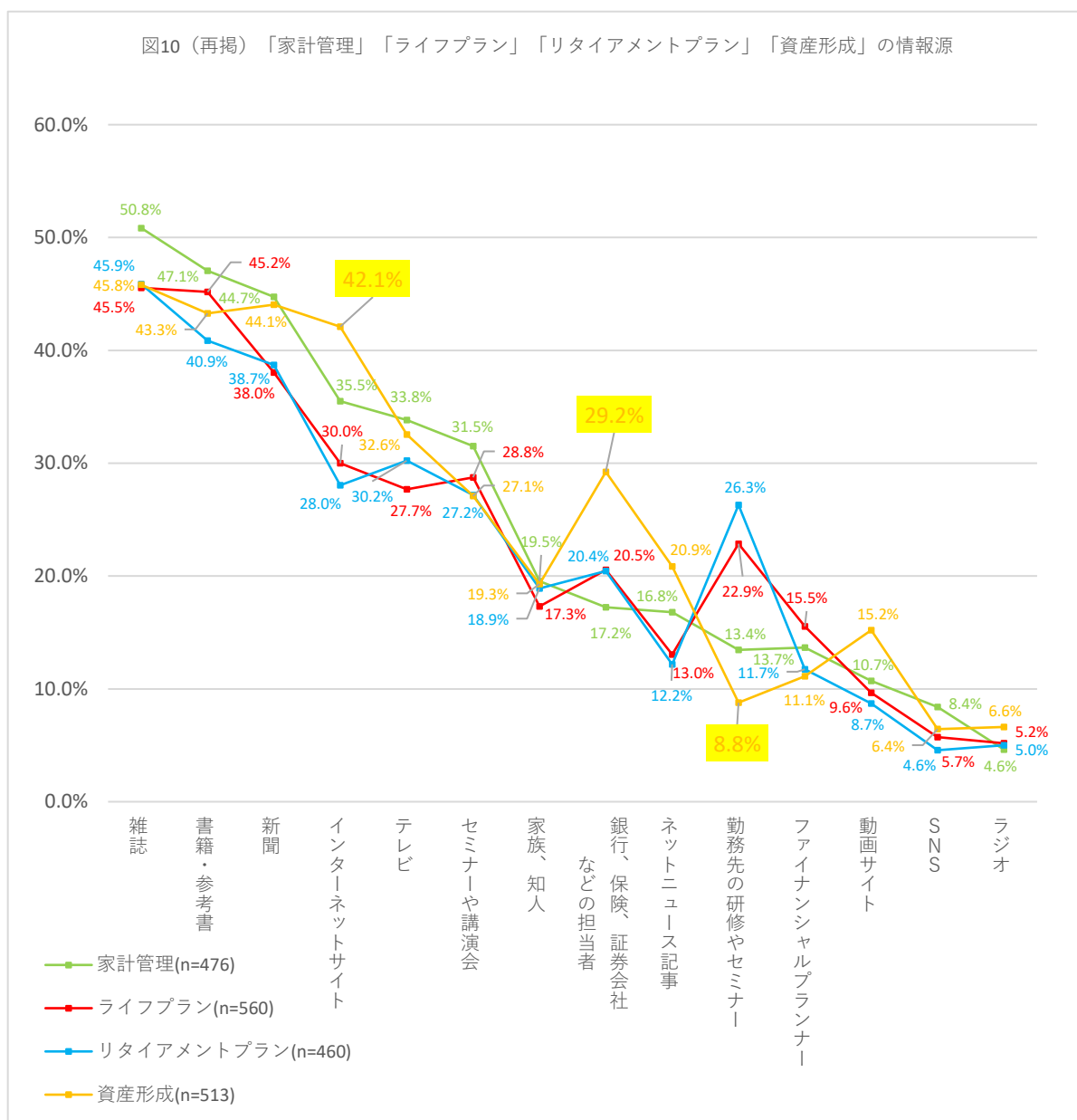


(複数回答)

(19-2) 「資産形成」の情報源

「家計管理」「ライフプラン」「リタイアメントプラン」情報源との比較

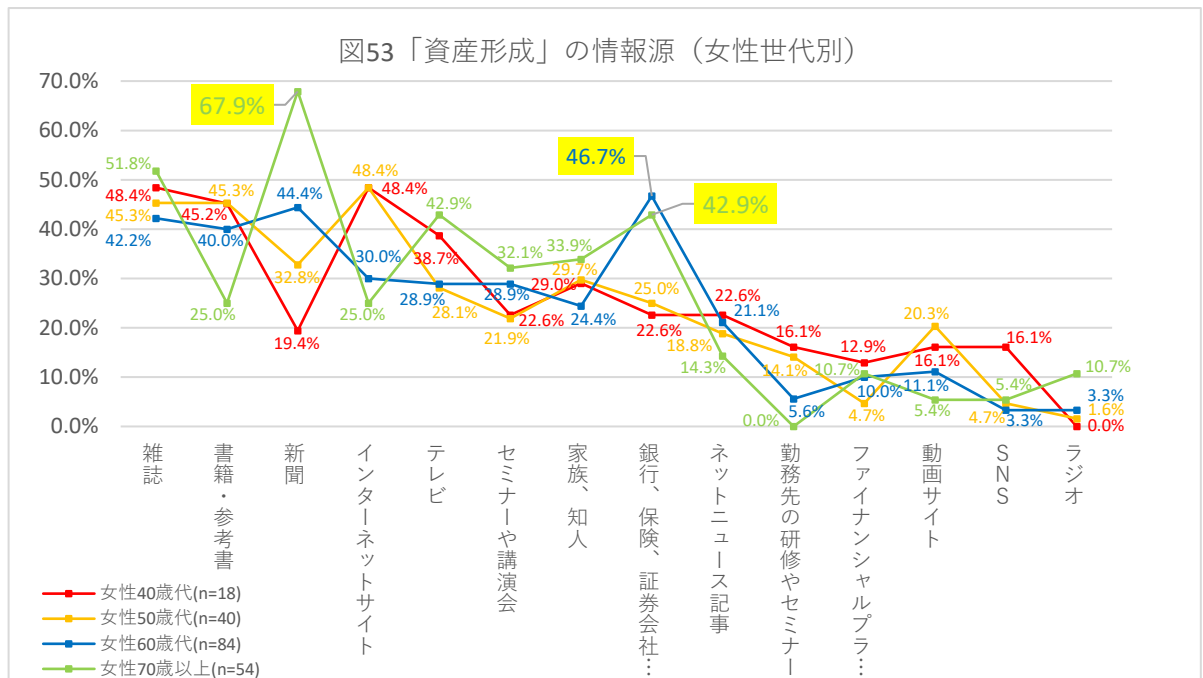
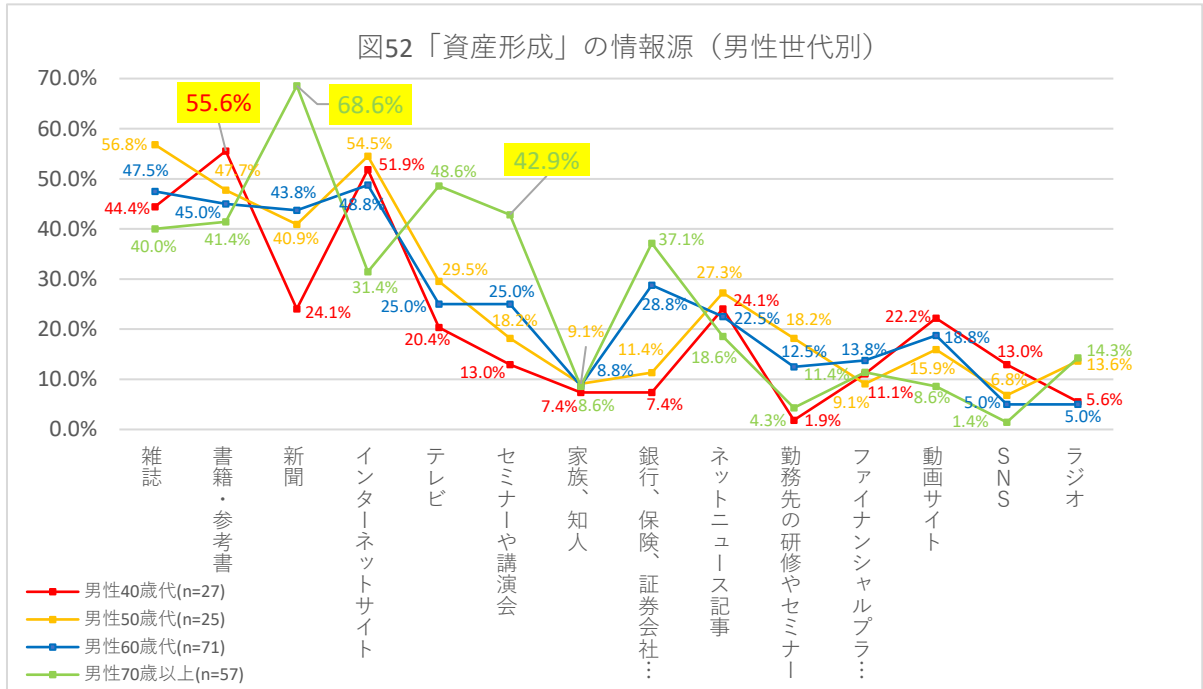
- ・「家計管理」「ライフプラン」「リタイアメントプラン」と比べて「資産形成」の情報源は「インターネットサイト」「銀行、保険、証券会社などの担当者」が多い
- ※「家計管理」は(4)、「ライフプラン」は(8)、「リタイアメントプラン」は(12)に詳細を掲載



(複数回答)

(19-3) 「リタイアメントプラン」立案の情報源 男女世代別

- ・「資産形成」の情報源として、男女とも世代が下がるにつれて「書籍参考書」「インターネットサイト」の割合が高くなっている
- ・男女とも世代が下がるにつれて「新聞」「セミナーや講演会」の割合が低くなる傾向がある

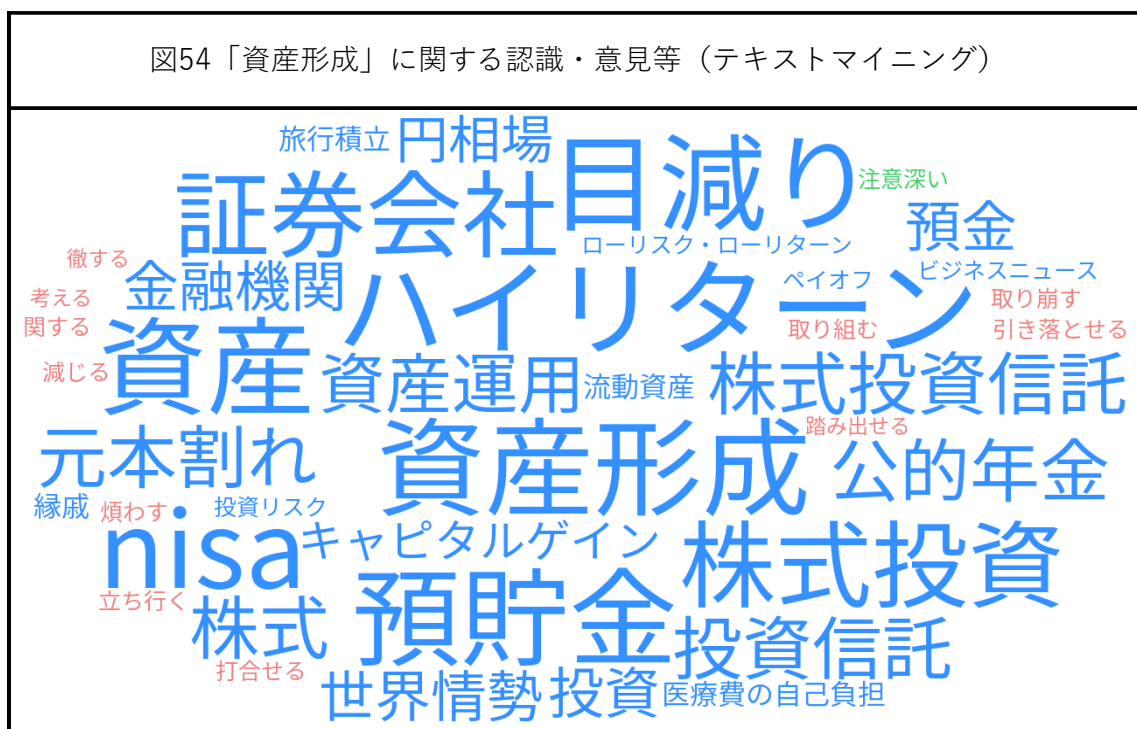


(複数回答)

(20) 「資産形成」に関する認識・意見等

- ・「安定性を重視して資産を構築するためには、リスクを認識しながら適切な商品を適切に運用していく必要がある」「情報の信ぴょう性を自分の力で判断しながら資産を形成することに難しさを感じている」といった認識や意見があった
- ・目減り・元本割れといった資産形成のリスク等に関する話題などが認められた

図54 「資産形成」に関する認識・意見等（テキストマイニング）



※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析(TF-IDF法) (<https://textmining.userlocal.jp/>)

以上

大人の「金融経済教育」に関する調査報告書

2025年2月 公開 / 一般財団法人 経済広報センター

文責・担当：国内広報部 主任研究員 須藤 智也

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

TEL：03-6741-0021 FAX：03-6741-0022